

旗 野 脩 一

略 歷

I 学歴および職歴

昭和24年 3月 東京大学医学部医学科卒業

昭和25年 3月 東京大学医学部付属病院インターン修了（昭和25年 7月
第8回医師国家試験合格）

昭和25年 4月 東京大学医学部付属病院第2内科（昭和26年 2月 医師免
許証第134899号）

昭和25年 4月 東京大学医学部第2内科研究生

昭和28年 4月 東京大学医学部文部教官（助手）

昭和30年 4月 東京大学医学部研究生

昭和32年12月 東京大学医学部付属病院医学博士号授与（昭和32年12月
医学博士第7018号 東京大学）

昭和36年 7月 東京大学医学部文部技官

昭和37年 4月 東京大学医学部文部教官

昭和41年 1月 東京大学医学部文部教官（講師 外来医長）（昭和44年12月
まで）

昭和42年 4月 世界保健機関本部心血管病課医官（昭和50年 2月まで）

昭和50年 4月 東京都老人総合研究所疫学部長（昭和57年12月まで）

昭和53年 7月 東京都養育院付属病院兼務（昭和57年12月まで）

昭和58年 1月 国立公衆衛生院疫学部長（昭和63年 3月まで）

昭和59年 4月 神戸大学大学院研究科講師（昭和59年10月まで）

昭和60年 6月 総理府技官（振興局）（昭和60年 7月まで）

昭和63年 4月 淑徳大学社会福祉学部教授（平成10年 3月まで）

平成元年 3月 淑徳大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程
設置に伴い（保健医療福祉論）⑧判定合格

平成 2 年 4 月 東海大学医学部非常勤教授（平成10年 3 月まで）
平成 4 年 4 月 淑徳大学社会学部社会福祉学科教授（学部名変更）
平成 7 年 1 月 淑徳大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻博士（後期）課程設置に伴い「社会福祉学特殊研究 V（保健医療福祉研究）」「社会福祉学特殊研究 V 演習」⑧判定合格
平成 7 年 4 月 淑徳大学図書館長（平成 9 年 3 月まで）
平成 9 年 3 月 淑徳大学社会学部社会福祉学科教授 定年退職 大学院教授は留任（平成10年 3 月まで）
平成 9 年 4 月 同上 嘱託教授（平成10年 3 月まで）
平成10年 4 月 同上 兼任講師（平成11年 3 月まで）
平成10年 4 月 熊本学園大学社会福祉学部教授（平成14年 3 月まで）
平成15年 1 月 埼玉筑波病院常勤嘱託医（現在に至る）

II 学会等における活動

昭和50年 4 月 世界保健機関専門家パネルメンバー（心血管病）（平成 5 年 9 月まで）
昭和50年 4 月 International Society and Federation of Cardiology（国際心臓連合）会員（平成 9 年まで）
昭和50年 6 月 日本老年医学会会員（同年10月から評議員、平成 8 年 3 月まで、平成10年 4 月より特別会員、現在に至る）
昭和51年 4 月 日本公衆衛生学会会員（昭和59年 6 月から昭和63年 3 月まで評議員、以後同会員、現在に至る）
昭和51年 4 月 日本高血圧学会会員（昭和59年 4 月から平成 4 年 3 月まで評議員、以後名誉会員、現在に至る）
昭和51年 4 月 日本脳卒中学会会員（昭和52年 4 月から評議員、現在に至る）
昭和51年 4 月 日本循環器管理研究協議会会員（昭和59年 4 月から平成 4 年 3 月まで常任理事、以後名誉会員、現在に至る）

昭和51年 4月 日本循環器学会会員（平成11年3月まで）

昭和51年 4月 日本動脈硬化学会会員（昭和63年3月まで）

昭和52年 4月 日本人口学会会員（平成14年3月まで）

昭和56年11月 日本老年社会科学会会員（昭和63年11月より平成6年9月まで理事、平成6年9月より評議員、平成9年6月名誉会員、現在に至る）

昭和57年 1月 International Society of Hypertension 会員（平成10年3月まで）

昭和58年 8月 国際心臓連合 (ISFC) 痘学・予防部会主催、WHO 後援 第16回心臓病の痘学・予防に関する国際テン・デイ・セミナー（裾野）の受入れ国世話人

昭和58年度 (財) 日本心臓財団奨励研究選考委員（昭和60年度まで）

昭和59年 1月 International Epidemiology Association 会員（現在に至る）

昭和61年 4月 東京都成人保健委員（昭和63年3月まで）

昭和61年10月 日本ストレス学会会員（平成13年3月まで）

昭和62年 4月 日本肥満学会会員（平成元年3月まで）

昭和62年 4月 日本体力学会会員（平成13年3月まで）

昭和63年 5月 日本循環器管理研究協議会 第23回総会会長

昭和63年 5月 第12回国際高血圧学会（東京）において 衛星集会「アジア・太平洋地域における高血圧の地域管理」開催

昭和63年 9月 日本疫学会特別会員（現在に至る）

平成 3年 6月 淑徳大学社会福祉学会理事（平成12年3月まで 以後同会員、現在に至る）

平成 5年10月 日本社会福祉学会会員（現在に至る）

平成 6年 4月 日本老年医学会認定医（認定医を日本老年医学会認定 老年病専門医と改稱、現在に至る）

平成14年 6月 国立保健医療科学院疫学部特別研究員（現在に至る）

(社会的活動)

昭和49年 1月 (財) 日本心臓財団予防委員 (昭和62年12月まで)

昭和50年 6月 (社) 日本循環器管理研究協議会評議員 (昭和53年6月より
理事、昭和59年5月より常任理事、平成4年6月常任理事
を辞し名誉会員、現在に至る)

昭和52年 9月 Archives of Gerontology and Geriatrics 編集委員 (現在
に至る)

昭和58年 2月 文部省学術審議会専門委員(科学研究費分科会) (昭和62年
1月まで)

昭和58年 4月 厚生省公衆衛生審議会専門委員 (昭和62年5月まで)

昭和58年10月 総合研究開発機構 老化と健康研究委員会委員 (昭和60年
まで)

昭和58年11月 (財) 消防科学総合センター 救急業務総合実態調査委員会
ワーキンググループ委員 (昭和59年11月まで)

昭和59年 1月 (財) 日本心臓財団専門委員 (昭和49年1月～62年12月まで
予防委員、昭和63年1月～平成11年5月まで国際委員)

昭和59年 4月 総理府資源調査会専門委員 (昭和61年7月まで)

昭和59年 7月 厚生省厚生統計協議会委員 (平成2年9月まで)

昭和59年 7月 厚生省衛生統計部会員 (平成2年9月まで)

昭和60年 4月 東京都目黒区保健所運営協議会委員 (昭和62年3月まで)

昭和60年 6月 総理府技官 (振興局) (昭和60年7月まで)

昭和60年 6月 科学技術庁 アメリカ合衆国出張

昭和60年 8月 国際協力事業団 医療特号専門家として中華人民共和国に
に対する技術協力 (8月6日から8月23日まで)

昭和61年 4月 東京都成人病検診管理指導協議会 循環器疾患等部会会員
(同部会会长、平成7年6月から8年3月まで同協議会会长)

昭和61年 4月 科学技術政策委員会研究評価小委員会「高齢化社会に対応

する科学技術の開発に関する研究』ワーキンググループ(昭和62年まで)

昭和61年 4月 中華人民共和国へ学術講演のため出張

昭和62年 6月 公衆衛生情報研究会理事 (昭和63年 3月まで)

昭和62年 6月 (財) 日本心臓財団評議員 (平成11年 5月まで)

昭和62年12月 (財) 循環器病研究振興財団評議員 (平成 7年 3月まで)

昭和63年 1月 (財) 日本心臓財団国際委員 (平成 5年 6月まで)

昭和63年 4月 国立公衆衛生院疫学部特別研究員 (平成13年 3月まで)

昭和63年 4月 (財) 東京都老人総合研究所看護学研究室客員研究員 (平成 3年 3月まで)

平成元年 3月 熊本県医師会、熊本市医師会、国立熊本病院地域医療研修センター主催第12回シンポジウム『循環器疾患の予防』において「虚血性心疾患の疫学」と題して講演

平成元年 8月 東京都練馬区光が丘総合病院運営懇談会委員 (平成 3年 3月まで)

平成元年10月 Social Science and Medicine (編集委員) (平成 7年 9月まで)

平成 2年 4月 美原賞選考委員会委員 (平成 2年度委員長、以後委員、平成 9年 3月まで)

平成 2年 8月 シンガポール大学 日本学科主催 Seminar on Ageing in the 21st Century: Japan and Singapore において Medical services for the elderly in Japan について発表

平成 2年 9月 独協大学医学部『高齢化社会における諸問題、美しく健やかに老いるために』において「今後の老人医療における福祉の在り方」について講演

平成 2年10月 東京都養育院付属診療所短寿命放射性薬剤臨床利用委員会委員 (平成10年 1月まで)

平成 2年11月 木更津市東清祖父母学級において「世界のお年寄り達各国

の老人の生活と福祉制度』と題して講演

平成 3 年 4 月 (財) 東京都老人総合研究所プロジェクト研究客員研究員 (平成 4 年 3 月まで)

平成 3 年 4 月 (財) 放射線影響研究所臨床研究部顧問 (平成 11 年 3 月まで)

平成 3 年 8 月 生涯スポーツと栄養研究会 (新宿) において「高齢者のスポーツ」について講演

平成 3 年 9 月 東京都特別区職員研修会議 (東京) において「これからの保健と福祉」について講義

平成 3 年 10 月 Workshop for Heart Foundation, The 10th Asian-Pacific Congress of Cardiology (ソウル) において Stroke and area of health care which falls within Foundation's mandate について講演

平成 3 年 12 月 東京都練馬区日本大学医学部付属練馬光が丘病院運営協議会委員 (会長 現在に至る)

平成 4 年 1 月 平成 3 年度淑徳大学市民公開講座『すこやかに老いるために』において「人生八十年時代の幕開け」と題して講演

平成 4 年 4 月 (財) 東京都老人総合研究所人間科学・リハビリテーション研究系看護学部門客員研究員 (平成 8 年 3 月まで)

平成 4 年 4 月 Japanese Journal of Hypertension 編集委員

平成 4 年 4 月 (社) 全国牛乳普及協会 牛乳栄養学術研究選考委員 (現在に至る)

平成 4 年 4 月 文京区消費者通信教育講座フォロー研修会 (文京区) において「食生活と健康」と題して講演

平成 4 年 6 月 國際衛生行政セミナー (八王子) において「わが國の公衆衛生行政の発展」について講演

平成 4 年 6 月 千葉市民文化大学講座 (千葉) において「高齢化時代の心とからだ」について講演

平成 4 年 9 月 秋田県立脳血管研究センター 客員研究員 (平成 5 年 8 月

まで)

平成 4 年10月 パッフェンバーガー教授来日記念特別講演会『運動と体力と健康』パネル（東京医大）において「老人の運動と健康」について講演

平成 4 年11月 平成 4 年度淑徳大学市民公開講座『新時代を生きる家族』において「老いと家族」と題して講義

平成 5 年 3 月 US-Japan Society, Seattle 主催の Stressed out in Japan and the US をテーマとする city club 講演会で、「The epidemiology of stress」と題して講演

平成 5 年 4 月 ワシントン大学医学部の research seminar において「A longitudinal study of ageing in Japanese population」と題して講演

平成 5 年 6 月 千葉市社会福祉協議会主催『千葉市ボランティア講座』において「老人のからだと心理」と題して講演

平成 5 年 6 月 (社福) 東京都葛飾区社会福祉協議会『第24回葛飾区長寿大学』において「老人とからだと健康」について講演

平成 5 年 7 月 (社福) 全国社会福祉協議会主催の『全社協社会福祉士通信教育研修』において「医学一般」について講義（以後続講現在に至る）

平成 5 年10月 平成 5 年度淑徳大学公開講座『中高年からの健康とスポーツ』において「スポーツを始める前に—中高年者のために」と題して講演

平成 5 年12月 (財) 日本国際協力センター主催『国際上級医療行政セミナー』において「日本における成人病対策」と題して講義

平成 6 年 5 月 (財) 千葉市文化振興財団主催『千葉市民文化大学』において「老人のからだとこころ」と題して講演（以後続講 平成 9 年 9 月まで）

平成 6 年 6 月 (社福) 葛飾区社会福祉協議会主催『第24回葛飾区長寿大学』

において「老人のからだと健康」と題して講演

平成 6 年 8 月 (財) 日本国際医療団主催『国際上級医療行政セミナー』において「日本の保健・医療と福祉の現状」の研修補佐

平成 6 年 9 月 東京都中野区地域保健推進会議委員（保健分科会会長 平成 8 年 10 月まで）

平成 6 年 9 月 千葉市社会福祉協議会主催『はじめてのボランティア』講座において「終末期の在り方」と題して講演

平成 6 年 9 月 千葉県旭市主催『あさひ寿大学』において「老人福祉」について講演

平成 7 年 4 月 東京都練馬区行政改革推進懇談会委員（平成 8 年 9 月まで）

平成 7 年 5 月 千葉県四街道市主催『介護者養成講座（3級）』において「高齢者の福祉」について講義

平成 7 年 5 月 国立公衆衛生院疫学部主催『特別課程成人病対策コース』において「循環器疾患の介入試験」について講義

平成 7 年 6 月 東京都老人保健事業調査委員会委員（会長）（平成 8 年 3 月まで）

平成 7 年 8 月 (財) 健康・生きがい開発財団主催『第13回第一次アドバイザー養成研修会』において「中高年の心身の特性」について講演（以後平成 9 年 10 月まで、第 15 回、第 16 回、第 18 回、第 21 回、第 23 回まで統講）

平成 7 年 11 月 千葉県海匝市千葉県海匝支庁社会福祉課地域福祉推進班共催「介護者養成講座（3級）」において「老人と福祉」「老人の医学基礎知識」と題して講義

平成 8 年 2 月 淑徳大学 英国ブリストル大学短期留学生現地指導並びに連絡調整のため英国出張（平成 8 年 3 月まで）

平成 8 年 4 月 (財) 東京都老人総合研究所 社会・社会医学系地域保健部門客員研究員（平成 10 年 3 月まで）

平成 8 年 4 月 (財) 日本心臓財団評議員（平成 10 年 3 月まで）

平成 8 年 7 月 千葉県赤十字奉仕団 千葉学生分団部長・顧問（平成10年3月まで）

平成 8 年 7 月 淑徳大学 医療ボランティアサークル Color colors 部長・顧問（平成10年3月まで）

平成 8 年 7 月 淑徳大学 人形劇よくばりんこ部長・顧問（平成 9 年 5 月まで）

平成 8 年 10 月 大乗淑徳学園、板橋区教育委員会主催『淑徳公開講座人間コミュニケーション講座21世紀と共生・新社会福祉時代の到来』において「高齢者福祉と介護問題」と題して講演

平成 8 年 10 月（社福）長岡老人福祉協会評議員（現在に至る）

平成 9 年 1 月 米国製薬工業協会、日本製薬工業協会主催『薬品産業の今後に関する研究報告会』において「パネルディスカッション疾病構造変化と保健医療費の長期予測』座長

平成 9 年 6 月（社）日本医学協会会員（平成15年1月理事 現在に至る）

平成11年 5 月 熊本学園大学春期公開講座『現代日本の医療と患者の自己決定権』において「医学の立場から」と題して講義

平成12年10月 熊本学園大学秋期公開講座『健康づくりを科学する』において「医学からみた健康」と題して講義

平成13年 4 月 日本社会事業学校連盟『社会福祉士資格等シンポジウム』において「医学一般」の教育のあり方について報告

平成13年 6 月（社）日本社会福祉士養成校協会理事（現在に至る）

平成13年11月 熊本学園大学秋期公開講座『現代日本における「共生」を考える』において「医療における共生と課題」と題して講義

業績目録

《学術論文／単著》

簗野脩一 (1956) 「人型結核菌の Streptomycin 耐性上昇の機作に関する研究 : (1) streptomycin 耐性上昇現象の分析」『結核』 31(11), 678-84.

簗野脩一 (1956) 「人型結核菌の Streptomycin 耐性上昇の機作に関する研究 : (2) 形態学的観察」『結核』 31(12), 723-7.

簗野脩一 (1959) 「脳の血行障害とその鑑別診断 (成因および病因について)」『最新医学』 14(12), 3431-9.

簗野脩一 (1961) 「心疾患にみられる肺野陰影について」『日本胸部臨床』 20 (5), 305-11.

簗野脩一 (1968) 「脳卒中の疫学的研究 (世界) —その現状と将来」『内科』 22(6), 1204-12.

Hatano, S. (1974) Epidemiology of cerebrovascular disease, Duchosal, P. W. and Krähenbühl, B. eds. *Accidents vasculaires cérébraux diagnostique et traitement*, Hans Huber, Bern, Stuttgart, Wien.

Hatano, S. (1975) Hypertension in Japan: A review, Paul, O. ed. *Epidemiology and control of hypertension*, Symposia Specialists, Miami, 63-99.

Hatano, S. (1975) Atherosclerosis in relation to personal attributes of the Japanese population in homes for the aged, Schattler, G., Goto, Y., Hata, Y. and Klause, G. eds. *Atherosclerosis III*, Springer Verlag, Berlin, Heidelberg, New York.

簗野脩一 (1975) 「動脈硬化の国際比較—とくに方法論を中心として—」『Geriatric Medicne』 13(4), 321-8.

Hatano, S. (1976) The world-wide problem of hypertension and stroke, Hatano, S., Shigematsu, I. and Strasser, T. eds. *Hypertension and stroke control in the community*, WHO, Geneva, 19-27.

簗野脩一 (1976) 「老人病の疫学とその課題」『医学のあゆみ』97(9), 661-6.

WHO collaborative study on the control of stroke in the community (Hatano, S. ed.) (1976) Experience from a multicenter stroke register: A preliminary report, *Bull. World Health Organ.*, 54, 541-53.

Hatano, S. (1977) Development of epidemiology of hypertension in Japan, Proceedings of the First Asian-Pacific Symposium on Hypertension, *Jpn. Circ. J.* 41(10), 1118-22.

簗野脩一 (1977) 「取扱い医療機関別にみた急死および循環器疾患死亡とその診断法の吟味」『日本公衛誌』24(12), 805-10.

簗野脩一 (1978) 「老人の健康問題」『ジュリスト増刊 総合特集12 高齢社会と老人問題』118-23.

簗野脩一 (1978) 「WHO の脳卒中予防対策と日本」『日本臨牀』34(1), 131-6.

Hatano, S. (1979) Stroke and its control, Hayase, S., Murao, S. and MacArthur, C. eds. *Cardiology, International Congress Series* 470, Excerpta Medica, Amsterdam, Oxford, Princeton, 159-62.

簗野脩一 (1979) 「本邦虚血性心疾患の疫学とその問題点」上田英雄編『内科シリーズ1 心筋梗塞のすべて (第二版)』南江堂, 15-25, 51-66.

簗野脩一 (1979) 「食塩と高血圧」村上元孝編『最新臨床シリーズ 高血圧』協和企画.

簗野脩一 (1979) 「動脈硬化性疾患の国際比較」大島研三、島本多喜雄、五島雄一郎編『動脈硬化症—基礎と臨床—』朝倉書店, 338-47.

簗野脩一 (1979) 「老化と人口問題」尾前照雄・亀山正邦・熊原雄一・林四郎・原沢道美編『図説老年病学 I 老化と老人病』同朋社, 254-69.

簗野脩一 (1979) 「展望」簗野脩一編『中高年健康管理学』上, 域内出版, 1-21.

簗野脩一 (1979) 「国際的にみた老人問題」『公衆衛生』43(9), 604-11.

簗野脩一 (1979) 「軽度高血圧の管理」『第20回日本医学会総会誌』(II) 1089-92.

簗野脩一 (1979) 「シンポジウム 日循協・今後の進むべき道 世界的視点か

ら」『日循協誌』14(3), 189-91.

Hatano, S. (1979) Risk factors for mortality among the elderly as observed in the Japanese old people's home, Orimo, H., Shimada, K., Iriki, M. and Maeda, D. eds. *Recent Advance in Gerontology*, International Congress Series 469, Excerpta Medica, Amsterdam, Oxford, Princeton, 522-24.

簗野脩一 (1980) 「生活様式と寿命」『日老医誌』17(2), 149-52.

簗野脩一 (1980) 「心血管疾患死亡率の経年変化」『日本臨牀』38(9), 3064-71.

簗野脩一 (1980) 「WHO の脳卒中調査分析をおえて」『総合臨牀』29(1), 63-8.

簗野脩一 (1980) 「脳卒中の疫学—WHO 脳卒中登録の成績を中心に—」厚生省医務局国立療養所課監修『脳卒中リハビリテーションハンドブック』社会保険出版社, 1-19.

簗野脩一 (1980) 「脳血管障害の疫学」亀山正邦編『内科シリーズ 4 脳卒中のすべて (第二版)』南江堂, 51-66.

簗野脩一 (1980) 「疫学と社会」細田瑳一・熊原雄一・清水直容・中村治雄編『図説臨床内科講座 第4巻循環器(1)』メジカルビュー社, 256-61.

簗野脩一 (1981) 「高血圧・脳卒中と食塩の関係」簗野脩一・大高道也編『減塩と食生活のハンドブック 高血圧・脳卒中・心臓病を防ぐために』社会保険出版社, 11-23.

簗野脩一 (1981) 「要約にかえて クイズ」上掲書, 73-100.

Hatano, S. (1981) Problems of hypertension in the Asian-Pacific area, Kesteloot, H. and Joossens, J. V. eds. *Epidemiology of arterial blood pressure*, Martinus Nijhoff Publishers, Hague, Boston, London, 471-87.

簗野脩一 (1981) 「国際的視野からみた高血圧の疫学」池田正男監修『高血圧の基礎から臨床まで 高血圧シンポジウム第1回』診断と治療社, 1-17.
(再録: 1984. 『高血圧の基礎から臨床まで—第1-3回高血圧シンポジウム』診断と治療社, 1-17).

簗野脩一 (1981) 「動脈硬化症の疫学」『最新医学』36(4), 629-39.

簗野脩一 (1981) 「老人ホーム検診成績よりみた生命予後」『日老医誌』18(6), 425-31.

簗野脩一 (1981) 「高齢者の余命と生活環境」『総合臨牀』30(1), 108-10.

簗野脩一 (1982) 「長寿の風土を探る」太田邦夫・阿部 裕・古川俊之編『ライブラリ 人間と医学5 高齢社会の構造 老化制御の展望—II』サイエンス社, 75-100.

簗野脩一 (1982) 「総括」簗野脩一編『日本人の循環器疾患とリスクファクター』メディカルトリビューン日本支社, 194-201.

簗野脩一 (1982) 「軽度高血圧管理をめぐって」『日循協誌』16(3), 205-10.

簗野脩一 (1982) 「境界域高血圧症」『日循誌』46 (総会抄録), 32-35.

簗野脩一 (1982) 「高血圧の遺伝と環境」『Current concepts in Hypertension』3 (1), 14-18.

Hatano, S. (1982) Current status of stroke problem in Japan, *Jpn. Circ. J.* 46(6), 597-601.

Hatano, S. (1983) Current Japanese situations on secondary prevention and lipid lowering drugs, Schattler, G., Gotto, A. M. Middelhoff, G. et al. eds. *Atherosclerosis VI*, Springer Verlag, Berlin, Heidelberg, New York, 913-9.

簗野脩一 (1984) 「向老期・老年期の生存と環境」小林 登・小泉 明・桜井 靖久・高久史麿編『講座現代の医学第5巻生存と環境』日本評論社, 158-76.

簗野脩一 (1984) 「循環器疾患の国際比較」『公衆衛生』48(3), 190-201.

簗野脩一 (1985) 「長寿と生きがい」『医学のあゆみ』132(13), 981-6.

簗野脩一 (1985) 「高血圧管理の地域計画」『日本臨牀』43(5), 1018-25.

簗野脩一 (1985) 「わが国における高血圧管理の現況」『medicina』22(8), 1342-5.

簗野脩一 (1986) 「諸外国の老人保健」『厚生の指標』33(11), 47-56.

簗野脩一 (1986) 「日本における危険因子と予防」『三和医報』 49-55.

Hatano, S. (1987) Concluding remarks The future of cardiovascular prevention, Yamori, Y. and Lenfant, C. eds. *Prevention of Cardiovascular Diseases. An approach to Healthy Long Life*, International Congress Series 727, Excerpta Medica, 239-48.

簗野脩一 (1988) 「現代の長寿とは」亀田治男、松橋 直、山中 学編『メディコピア18 老人痴呆は防げるか』協和企画出版, 64-83.

簗野脩一 (1988) 「疫学研究の国際動向とその評価」『日本医師会誌』 99(5), 754-9.

Hatano, S. (1989) Medical services for the elderly in Japan, Bentelspacher, C. and Minai, K. eds. *Ageing in Japan and Singapore*, Dept. of Japanese Studies, Univ. of Singapore, 18-49.

Hatano, S. (1989) International trends in epidemiological research and their evaluation—Lifestyle and health—Cardiovascular diseases (ischemic heart disease), *Asian Med. J.* 32(5), 252-60.

Hatano, S. (1989) Changing CHD mortality and its causes in Japan during 1955-85, *Internat. J. Epidemiol.*, 18 (Suppl. 1), 149-58.

簗野脩一 (1992) 「日本の文明化と心疾患」第23回日本医学会総会記録委員編『第23回日本医学会総会1991京都総会会誌』 I, 339.

簗野脩一 (1993) 「淑徳大学卒業生有志の職場と意見」『淑徳社会福祉研究』 1, 29-40.

簗野脩一 (1993) 「人はどのように死にたいか」『公衆衛生』 57(9), 604-9.

簗野脩一 (1994) 「結婚・出産・保育に関する大学生の意見—アンケート調査成績より—」『淑徳社会福祉研究』 2, 43-53.

簗野脩一 (1995) 「結婚・出産・保育に関する大学卒女性の意見—アンケート調査成績より—」『淑徳社会福祉研究』 3, 31-42.

簗野脩一 (1997) 「イギリスの医療」『医学と医療』 354, 1-12.

簗野脩一 (1999) 「(最終講義) 医師の眼に映った社会福祉」『淑徳大学大学院

研究紀要』 6, 12-29.

簗野脩一(2001)「学生による介護保険利用者調査の経験 第1報 調査の概要と調査対象者の特徴」『社会関係研究(熊本学園大学)』8(1), 187-211.

簗野脩一(2001)「学生による介護保険利用者調査の経験 第2報 介護資源、利用状況及び利用者の生活の変化」『社会関係研究(熊本学園大学)』8(2), 141-72.

簗野脩一(2001)「学生による介護保険利用者調査の経験 第3報 介護保険制度の認識と高齢者の意向尊重の実態」『社会関係研究(熊本学園大学)』8(2), 173-204.

簗野脩一(2002)「英国の医療見聞記」『医学と医療』427・428合併号, 1-22.

簗野脩一(2003)「英国の医療・福祉の近況(1990年代) とくにコーンウォール県の状況を中心に」『海外事情研究(熊本学園大学)』30(2), 155-83.

簗野脩一(2003)「予防医学の現状と将来像」『CAMPUS HEALTH』40(1), 45-60.

《学術論文／共著》

簗野脩一・加藤光夫(1955)「球型灰白髄炎の2症例」『内科の領域』3(4), 201-4.

村尾 誠・小原常吉・百瀬達也・ほか(1955)「慢性肺気腫」『呼吸と循環』3(4), 221-32.

百瀬達也・簗野脩一・岡野正光・ほか(1956)「慢性肺気腫患者における各種負荷試験の動脈血酸素飽和度に及ぼす影響 Ear-oximeterによる観察」『最新医学』11(3), 699-707.

岡野正光・簗野脩一・村尾 誠(1958)「PZAの抗結核菌作用と耐性」『結核研究の進歩』22, 47-58.

簗野脩一・村尾 誠・百瀬達也・ほか(1956)「ピラジナマイド、イソニコチン酸ヒドロジド併用療法に関する研究」『最新医学』11(12), 699-707.

村尾 誠・簗野脩一(1959)「気管支拡張症とその治療」『最新医学』14(10), 2718-26.

長谷川直人・簗野脩一・荒木恒夫 (1959) 「いわゆる脳紫斑症を伴った出血性肺炎の1剖検例」『最新医学』14(10), 2869-75.

Hatano, S., Hirota, K., Momose, T., and Murao, M. (1961) Radiographic appearance of pulmonary complications in cardiovascular diseases, *Jpn. Heart J.* 2 (3), 297-308.

白石 透・鵜沢 豊・小池繁夫・簗野脩一・ほか (1962) 「いわゆる vanishing lung の肺機能について」『日本胸部臨床』21(9), 677-82.

飯塚昌彦・簗野脩一・上田英雄 (1962) 「van der Hoeve 症候群の一例」『日内誌』50(10), 1126-32.

簗野脩一 (1963) 「結核、妊娠が問題となった sarcoidosis の症例」『日本臨牀』21(5), 1000-7.

Momose, T., Hatano, S., Koike, S. et al. (1963) Studies on prognosis of chronic pulmonary emphysema with special reference to abnormalities in pulmonary circulation and arterial blood gas, *Jpn. Heart J.* 4 (6), 524-36.

Ueda, H., Murao, M., Momose, T., Hatano, S. et al. (1964) Incidence and clinical pathological manifestation of pulmonary thromboembolism in Japan,. *Jpn. Heart J.* 5 (5), 445-55.

上田英雄・村尾 誠・村尾 覚・ほか (1965) 「肺血栓の心電図とその発現機序」『最新医学』20(4), 827-33.

Ueda, H., Murao, M., Momose, T., Hatano, S. et al. (1965) Effects of pulmonary artery or vein distension with a balloon in the pulmonary and femoral arterial pressure in anesthetized dogs. *Jpn. Heart J.* 6 (5), 428-42.

上田英雄・開原成允・森成 元・簗野脩一・ほか (1965) 「いわゆる “Unilateral hyperlucent lung” に関する一考察」『最新医学』20(12), 3228-33.

上田英雄・開原成允・飯尾正宏・簗野脩一・ほか (1965) 「¹³¹IMAによる各種心肺疾患のシンチグラム—¹³¹I—標識 Macroaggregated Albumin

(MAA) に関する研究 (第 3 報)」『最新医学』20(7), 1718-26.

村尾 誠・百瀬達也・簗野脩一・ほか (1966) 「肺拡散量の正常値および肺疾患患者における異常値の評価について」『日本臨牀』24(8), 1555-66.

簗野脩一・上田英雄・村尾 誠・ほか (1967) 「肺胞微石症」『内科』19(5), 909-16.

上田英雄・森成 元・村尾 誠・ほか (1967) 「レスピレーターによる呼吸管理を行った神経疾患の 2 症例の経過について」『内科』19(5), 928-32.

村尾 誠・百瀬達也・簗野脩一・ほか (1967) 「肺拡散量の正常値および肺疾患患者における異常値の評価について」『日本臨牀』24(8), 1555-66.

上田英雄・飯尾正宏・簗野脩一 (1967) 「胸部疾患の核医学的診断法—展望—」『日本胸部臨床』26(3), 167-72.

上田英雄・簗野脩一・森成 元・ほか (1967) 「MAA の Scintigram の応用 肺の局所換気・血流異常の測定と臨床—吸入スキャニング法を中心として—」『日本胸部臨床』26(3), 207-23.

Ueda, H., Hatano, S., Iio, M. et al. (1967) Pulmonary regional ventilation-perfusion relationships in chronic cardiopulmonary disorders. I. Radioactive rare gas method (Xe-133, Xe-135 and Kr-85 method). *Jpn. Heart J.* 8 (6), 559-68.

Ueda, H., Morinari, H., Hatano, S., et al. (1968) Pulmonary regional ventilation-perfusion relationships in chronic cardiopulmonary disorders. II. Scintiscanning method. *Jpn. Heart J.* 9 (6), 552-63.

Ueda, H., Hatano, S., Koide, S. and Gondaira, T. (1968) External measurement of regional cerebral blood flow in mice by common carotid arterial injection of radioactive Kr-85 saline solution. *Jpn. Heart J.* 9 (4), 349-58.

上田英雄・簗野脩一・飯尾正宏・ほか (1968) 「ラヂオアイソトープによる脳循環の分析」『最新医学』29(9), 1945-54.

上田英雄・簗野脩一・小出 直・権平達二郎 (1969) 「起立および失神時の脳

循環動態—RI 体外希釈法による研究」『呼吸と循環』 17(3), 243-7.

Hatano, S., Strasser, T., Feifar, Z. and Uemura, K. (1972) The self measurement of blood pressure an experiment with office workers at their place of work, *Bull. World Health Organ.*, 47, 670-2.

簗野脩一・重松逸造 (1974) 「集団における高血圧、脳卒中の総合的対策—最近の WHO 会議から—」『日本医事新報』 2619, 26-30.

Hatano, S. ed. (1976) Variability of the diagnosis of stroke by clinical judgement and by a scoring method, *Bull. World Health Organ.*, 54, 533-40.

Hatano, S. ed. (1976) Experience from a multicentre stroke register: a preliminary report, *Bull. World Health Organ.*, 54, 541-53.

Hatano, S. ed. (1977) Observer variations in the diagnosis of stroke, *Jpn. Heart J.* 18(2), 171-7.

簗野脩一・廣田 穎・越永重四郎 (1977) 「取扱医療機関別に見た急死及び循環器疾患死とその診断法の吟味」『日本公衛誌』 24(12), 805-10.

簗野脩一・松崎俊久・七田恵子 (1978) 「虚血性心疾患による死亡の実態—東京都板橋区における死亡診断書の調査研究—」『動脈硬化』 5(4), 383-8.

松崎俊久・柴田 博・簗野脩一 (1978) 「日本人都市住民の血清コレステロール値の疫学的研究—とくに成長期の変動について」『動脈硬化』 5(4), 389-94.

簗野脩一・松崎俊久 (1979) 「軽度高血圧の管理」『内科』 44(2), 213-9.

柴田 博・上田敦子・須山靖男・ほか (1979) 「糖代謝異常に対する疫学的アプローチ」『日老医誌』 16(4), 362-7.

折笠秀樹・簗野脩一・開原成允・ほか (1979) 「脳卒中の生命予後規定条件の解析—生命分析表の応用—」『日本医事新報』 2896, 23-9.

WHO 脳卒中地域管理研究グループ (1979) 「WHO 脳卒中登録からみた高血圧の意義」『総合臨牀』 28(2), 261-4.

柴田 博・簗野脩一 (1979) 「長寿」尾前照雄・亀山正邦・熊原雄一・林 四

郎・原沢道美編『図説老年病学 I 老化と老人病』同朋社, 272-85.

竹内孝仁・簗野脩一 (1979) 「寝たきり老人」尾前照雄・亀山正邦・熊原雄一・林 四郎・原沢道美編『図説老年病学 I 老化と老人病』同朋社, 288-95.

簗野脩一・重松逸造 (1980) 「WHO の脳卒中調査分析をおえて」『総合臨牀』29(1), 65-68.

Hatano, S. and Shibata, H. (1979) A salt restriction trial in Japan, Gross, F. and Strasser, T. eds. *Mild hypertension—natural history and management*, Pitman Medical, Bath, 147-60.

Aho, K., Harmsen P., Hatano, S. et al. (1980) Cerebrovascular disease in the community: results of a WHO collaborative study, *Bull. World Health Organ.*, 58, 113-30.

柴田 博・松崎俊久・簗野脩一 (1980) 「疫学からみた老年者高血圧」『Geriatric Medicine (老年医学)』18(12), 1634-40.

七田恵子・松崎俊久・簗野脩一 (1980) 「都市在住70歳老人のペントン視覚記 銘テスト成績と医学的社会的背景との関係」『社会老年学』12, 41-6.

簗野脩一・松崎俊久・七田恵子・ほか (1981) 「老人の動脈硬化の疫学的観察」『Geriatric Medicine (老年医学)』19(2), 189-95.

芳賀 博・七田恵子・永井晴美・ほか (1981) 「老人ホーム健診成績よりみた生命予後」『日老医誌』18(6), 425-31.

芳賀 博・松崎俊久・簗野脩一 (1981) 「老人の保健行動」『社会老年学』14, 64-73.

Shibata, H., Suyama, Y., Haga, H. et al. (1982) Na/Creatinine and Na/K ratios in monitoring spot urines and dietary habits of urban Japanese, *Magnesium*, 1, 172-7.

Hatano, S., Kim, I. S., Guzman, S. V. et al. (1982) Personal attributes related to blood pressure in a community population in Japan, Korea and Philippines. An international cooperative study, *Magnesium*, 1, 185-95.

簗野脩一・芳賀 博(1982)「高齢者の余命と健康」『病態生理』1(3), 234-41.

簗野脩一・芳賀 博・荒尾静代 (1982)「老化と予後の関連因子」『応用統計学』11(1), 49-58.

芳賀 博・松崎俊久・七田恵子・ほか (1983)「老人における痛みの訴えと関連要因」『老年社会科学』 5, 158-67.

Hatano, S. and Fujii, M. (1984) The trend and magnitude of ischemic heart disease in Japan, *Annals Academy of Med.* (Univ. Singapore), 13(2), 216-23.

Hatano, S., Minowa, M., Omura, T. et al. (1984) Stroke mortality and proportional expenditure on selected food items in Japanese communities, *Annals Clin. Res.* 16 (Suppl. 43), 163-9.

簗野脩一・藤田利治 (1984)「予後因子の推定について」『総合臨牀』33(5), 883-90.

永井晴美・七田恵子・芳賀 博・ほか (1984)「地域在住老人の血清アルブミンの加齢変化と生命予後との関係」『日老医誌』21(6), 588-92.

須山靖男・七田恵子・芳賀 博・ほか (1984)「地域老人の栄養摂取形態と関連要因」『老年社会科学』19, 58-66.

簗野脩一・藤田利治・久保奈佳子 (1985)「生活様式と寿命」『からだの科学増刊17, 大友英一編 老年学読本』124-30.

簗野脩一・藤田利治(1985)「高血圧管理の地域計画」『日本臨牀』43(5), 1018-25.

簗野脩一・藤田利治・石井寿晴・山田博章 (1986)「動脈硬化測定標準化の試み」『動脈硬化』14(3), 505-13.

柴田 博・松崎俊久・簗野脩一 (1986)「地域老人健康調査における参加者と非参加者の比較」『老年社会科学』 8, 177-86.

勝野真人・金森雅夫・佐藤龍三郎・ほか (1986)「老人の大腿骨頸部骨折に関する患者対照研究」『日老医誌』23(6), 552-8.

Shibata, H., Haga, H., Shichita, K. et al. (1986) Falls in the institutional elderly in Japan, *Arch. Gerontol. Geriatr.*, 5(1), 1-9.

簗野脩一・上畠鉄之丞 (1987) 「喫煙と循環器疾患」『日本医師会雑誌』98(7), 1095-8.

鈴木一夫・簗野脩一(1987) 「脳卒中の疫学—新しい地域登録組織の発展」『診断と治療』75(8), 1790-3.

簗野脩一・鈴木雄次郎・竹内孝仁・七田恵子・鎌田ケイ子 (1987) 「長期臥床老人の疫学」『第21回日本医学会総会会誌』3調和の医学, 2784-6.

Hatano, S., Fujita, T., Kubo, N., Toyokawa, H. and Kimura, N. (1987) Between- and within- examined variations in the measurement of subcutaneous fat using standard calipers and an A-mode type ultrasonic device, Yamori, Y. and Lenfant, C. eds. *Prevention of Cardiovascular Diseases. An approach to Healthy Long Life*, International Congress Series 727, Excerpta Medica, 145-50.

Hatano, S., Matsuzaki, T., Shibata, H. et al. (1988) A prospective study of Japanese 70-year-olds: The Koganei study, Brody, J. A. and Maddox, G. L. eds. *Epidemiology and Aging: An International Perspective*, Springer Publishing, New York, 54-79.

Shibata, H., Haga, H., Suyama, Y. et al. (1988) A ten-year comprehensive study of the Japanese urban elderly: The Koganei study. 『社会老年学』27, 68-77.

Tanaka, K., Masuda, J., Imamura, T. et al. (1988) A nation-wide study of atherosclerosis in infants, children and young adults in Japan, *Atherosclerosis*, 72, 143-56.

簗野脩一・上畠鉄之丞・簗輪真澄・星 旦二 (1988) 「禁煙と動脈硬化」『内科』62(5), 849-52.

簗野脩一・上畠鉄之丞・竹内和子 (1988) 「長期降圧療法は心筋梗塞を減少させるか?」『カレントテラピー』6(1), 59-64.

Hatano, S. and Uehata, T. (1988) Smoking and cardiovascular diseases, *Asian Med. J.* 31(4), 183-8.

大黒 寛・成橋廣昭・上田晃輔ほか (1988) 「石綿曝露と肺がんに関する患者対照研究」『日本公衛誌』35(8), 68-77.

簗野脩一・藤田利治 (1989) 「高齢者特性の国際比較」『厚生の指標』36(15), 12-20.

Hatano, S. and Yamada, K. (1989) Ageing and nutrition A Japanese perspective, Ingram, D. K., Baker III, G. F. and Shock, N. W. eds. *The potential for nutritional modulation of aging process*, Food & Nutrition Press, Trumbull, 91-107.

Hatano, S., Uehata, T. and Hattori, M. (1989) Stress and cardiovascular disease, International Conference on Industrial Health and The VIII th UOEH International Symposium —Health Surveillance of Workers —, J. UOEH (University of Occupational and Environmental Health, Japan), 11 Suppl. 39-48.

藤田利治・簗野脩一 (1990) 「地域老人の生命予後関連要因についての 3 地域追跡研究」『日本公衛誌』37(1), 1-8.

田宮菜奈子・荒記俊一・七田恵子・簗野脩一・ほか (1990) 「ねたきり老人の在宅死に影響を及ぼす要因—往診医の存在、年齢との関係を中心に」『日本公衛誌』37(1), 33-8.

藤田利治・簗野脩一 (1990) 「地域老人の日常生活動作の障害とその関連要因」『日本公衛誌』37(2), 76-87.

藤田利治・簗野脩一 (1990) 「地域老人の健康度、自己評価の関連要因とその後 2 年間の死亡」『社会老年学』31, 43-51.

藤田利治・簗野脩一 (1990) 「地域老人の生命予後関連要因についての 3 地域追跡研究」『日本公衛誌』37(1), 1-8.

磯村孝二・伊藤良雄・稻垣義明・ほか (1990) 「地域登録に基づくわが国の急性心筋登録の特徴」『厚生の指標』37(5), 3-12.

島尾忠男・五島雄一郎・青木正和・ほか (1990) 「禁煙補助剤ニコチン・レジン複合体の臨床第 I 相試験 (第 1 報) —健常人における 1 回投与試験成

績・禁煙との関係」『臨床医薬』 6, 1097-112.

島尾忠男・五島雄一郎・青木正和・ほか (1990) 「禁煙補助剤ニコチン・レジン複合体の臨床第 I 相試験 (第 2 報) 一健常人における連続投与試験成績・喫煙との比較」『臨床医薬』 6, 1787-801.

島尾忠男・五島雄一郎・浅野牧茂・ほか (1990) 「ニコチン・レジン複合体の有効性, 安全性および至適用量の検討—初期第 II 相オープン試験—」『臨床医薬』 6, 369-91.

Suzuki, K., Kutsuzawa, T., Nakajima, K. and Hatano, S. (1991) Epidemiology of vascular dementia and stroke in Japan, Akita. Hartmann, A., Huschinsky, W. and Hoyer, S. eds. Cerebral ischemia and dementia, Springer Verlag, Berlin, Heidelberg, 16-24.

巻田ふき・七田恵子・簗野脩一 (1991) 「老人を看取った家族の心残りに関する研究」『社会老年学』 33, 48-55.

矢部弘子・七田恵子・巻田ふき・簗野脩一 (1991) 「病弱老人の聴力低下に伴う日常生活及び介護への影響」『社会老年学』 33, 81-7.

Haga, H., Shibata, H., Ueno, M. et al. (1991) Factors contributing to longitudinal changes in activities of daily living (ADL): The Koganei Study, *J. Cross-Cultural Gerontology*, 6, 91-9.

Minowa, M., Hatano, S., Ashizawa, M. et al. (1991) A case-control study of lung cancer with special reference to asbestos exposure, *Environ. Health Perspectives*, 94, 39-42.

谷口幸一・藤田利治・大塚俊男・簗野脩一 (1993) 「日本の高齢者における適応反応としての主観的健康水準の意義」『鹿屋体育大学学術研究紀要』 9, 107-18.

Satomi, H., Minowa, M., Hatano, S. et al. (1994) An epidemiological study on the preventive effect of dietary fish on bronchial asthma, 『公衆衛生研究』 43(3), 305-14.

Sun, X., Yamori, Y., Zhuang, J. et al. (1994) Dietary factors and blood

pressure of Tibetan population in Lhasa, *Chin. J. Hypert.* 2(4), 279-82.

行方 令・Moore, D.・鈴木健二・ほか (1995) 「シアトル日系アメリカ人における血清脂質とライフスタイル要因に関する研究」『厚生の指標』42(7), 16-21.

簗野脩一・永田久美子・七田恵子・巻田ふき (1996) 「高齢者の身体症状とその対応 試論—3 地域老人調査成績より」『淑徳大学大学院研究紀要』3, 33-69.

行方 令・Moore, D.・鈴木賢二・簗野脩一・ほか (1997) 「シアトル日系アメリカ人における大動脈波速度と動脈硬化リスク要因との関係に関する研究」『日本公衛誌』44(12), 942-51.

Namekata, T., Moore, D., Knopp, R. et al. (1997) Cholesterol levels among Japanese Americans and other populations Seattle Nikkei Health Study, *J. Atherosclerosis and Thrombosis*, 3(2), 105-13.

Namekata, T., Moore, D. E., Suzuki, K. et al. (1997) Biological and Lifestyle Factors and Lipid and Lipoprotein Levels among Japanese Americans in Seattle and Japanese Men in Japan, *Internat. J. Epidemiol.*, 26(6), 1203-13.

《報告書類》

簗野脩一 (研究代表者) (1983) 「小金井市70歳老人の総合健康調査—第1報—」(財東京都老人総合研究所.

簗野脩一 (1985) 「疫学面からみた老化指標の選択及び老化の予防・緩和 (身体面から)」NRO-83-2 自主研究、伊部英男(委員長)『老化と健康に関する研究』総合研究開発機構, 225-61.

簗野脩一・大塚俊男 (研究指導) (1985) 簡野脩一・大塚俊男・藤田利治・谷口幸一『中高年者の健康に関する調査—わが国の高齢者の健康とその関連要因 (大都市・地方都市・農村の比較)』NRC-84-4 委託研究、総合

研究開発機構.

重松逸造（班長）（1986）「58指—1 脳血管疾患の死亡率・発生率の動向モニタリングとそれを決定する要因についての研究」『厚生省循環器病研究委託費による研究報告』昭和61年度, 256-68.

簗野脩一（1986）「我が国の高齢者の健康とその関連要因 大都市・地方都市・農村の比較」第3回研究助成 昭和61年度『研究報告要約集』（財）健康科学振興財団, 10-12.

簗野脩一（1986）「第1分科会討議概要 健康の概念について」小泉 明・森本兼彙・簗野脩一・長谷川和夫（日本側世話人）『高齢化社会の健康問題—高齢化に関する第3回日米国際会議報告』『公衆衛生』50(6), 414-7.

藤田利治・簗野脩一（1987）「地域老人のADLの現状と将来」昭和62年度科学技術振興調整（重点基礎研究）費成果報告書『人口高齢化に対応する公衆衛生対策のための基礎的研究』国立公衆衛生院, 83-98.

簗野脩一（班長）（1988）「61指—2 地域特性に適した心筋梗塞、脳卒中の動向予測に関する研究」『厚生省循環器病研究委託費による研究報告』昭和62年度, 473-5.

簗野脩一・ほか（1989）「総括研究報告」『昭和63年度厚生省循環器病研究委託費による研究報告集』国立循環器病センター, 14-15.

簗野脩一・ほか（1989）「関東・甲信越地方における心筋梗塞・脳卒中の動向予測に関する研究」『昭和63年度厚生省循環器病研究委託費による研究報告集』国立循環器病センター, 18-20.

簗野脩一（研究代表者）（1991）『急性心筋梗塞・脳卒中の発症とその関連要因モニタリング』（社）日本循環器管理研究協議会、東京.

七田恵子（研究代表者）（1991）『高齢虚弱者に関する調査 品川区・清水市・鳥取県中部の高齢者実態調査—1987-88年調査—』（財）東京都老人総合研究所 看護学研究室.

簗野脩一（1991）「予防医学と疫学研究の倫理に関する考察」昭和63～平成2年度科学的研究費補助金（総合A）研究成果報告書（研究代表者 山本俊

一) 『予防医学の倫理問題に関する研究』 18-26.

簗野脩一・簗輪真澄(1987)「牛乳と胃がんの関係に関する疫学文献研究」『昭和61年度牛乳栄養学術研究会報告書』 69-112.

簗野脩一・簗輪真澄・田中平三・ほか (1989)「牛乳と健康に関する疫学的研究」『昭和63年度牛乳栄養学術研究会報告書』 51-76.

簗野脩一 (1989)「牛乳の健康に与える影響に関する疫学的研究」牛乳栄養学術研究会『牛乳と健康・国際フォーラム栄養学術研究会, 第4回学術フォーラム報告書』 98-123.

簗野脩一・鏡森定信・権平達二郎・ほか (1990)「牛乳飲用の健康に及ぼす影響に関する疫学的研究」『平成元年牛乳栄養学術研究会報告書』 43-53.

簗野脩一・鏡森定信・権平達二郎・ほか (1992)「牛乳の健康に及ぼす影響に関する疫学的研究」『平成3年牛乳栄養学術研究会報告書』 46-62.

簗野脩一・簗輪真澄・田中平三・ほか (1993)「農村地域における成人病と牛乳飲用習慣」『平成4年度牛乳栄養学術研究会報告書』 62-79.

簗野脩一・田中平三・鏡森定信・ほか (1994)「農村における成人病と牛乳摂取の意義について(II)」『平成5年度牛乳栄養学術研究会報告書』 48-60.

簗野脩一・田中平三・鏡森定信ほか (1995)「農村における成人病と牛乳摂取の意義について(III)」『平成6年度牛乳栄養学術研究会報告書』 63-80.

簗野脩一 (1995)「訪問看護における医療・福祉との連携」厚生省長寿科学総合研究第3分野 平成6年度研究報告『老人訪問看護の質の評価研究(班長 七田恵子) 平成6年度研究』 6, 24-7.

簗野脩一 (1996)「NHS(国民保健サービス)及びコミュニティケア法以降のNHS変革—地域で見るその背景と影響—」淑徳大学大学院共同研究会報告書(1993-95年)『福祉に重点をおいた英国福祉国家の多元化に関する研究』 淑徳大学大学院社会福祉学研究科, 1-30.

《学会発表／単著》

Hatano, S. (1970) Magnitude of the stroke problem in the world, WHO

Seminar on prevention, treatment and rehabilitation of stroke, Monaco.

Hatano, S. (1972) Epidemiology of cerebrovascular disease, The 11th Meeting of Swiss Angiology Society, Geneva.

Hatano, S. (1974) The worldwide problem of stroke and hypertension, WHO Conference on community control of hypertension and stroke, Tokyo.

Hatano, S. (1974) Hypertension in Japan—A review, The 2nd World Congress of Hypertension, Chicago.

Hatano, S. (1974) One-year experience of multicenter community stroke registration. WHO meeting on community control of hypertension and stroke, Tokyo.

Hatano, S. (1976) Atherosclerosis in relation to personal attributes of a Japanese population in old people's homes, The 4th Internat. Congress of Atherosclerosis, Tokyo.

Hatano, S. (1977) Epidemiology of hypertension in the Asian-Pacific, The 6th Asian-Pacific Congress of Cardiology, Honolulu.

Hatano, S. (1977) Rheumatic heart disease in South-east Asia as observed in national mortality statistics, The first Asian Conference on Rheumatic Fever and Rheumatic Heart Disease, Tokyo.

Hatano, S. (1978) Stroke and its control, The 8th World Congress of Cardiology, Tokyo.

Hatano, S. (1979) Development of epidemiology of hypertension in Japan, The First Asian-Pacific Symposium on Hypertension, Tokyo.

Hatano, S. (1979) Epidemiology and community control of hypertension and stroke, The 7th Asian-Pacific Congress of Cardiology, Bangkok.

Hatano, S. (1979) Trends in ischemic heart disease mortality and possible risk factors in Japan. The 5th Internat. Congress of Atheroscler-

osis, Houston.

Hatano, S. (1980) Epidemiology and control of hypertension and stroke in Japan, Coimbra. Portugal.

簗野脩一 (1980) 「日本人と高血圧」日本人と高血圧、ハワイシンポジウム、Kauai. Hawaii.

Hatano, S. (1981) Current status of the stroke problem in Japan, The 1st Asian-Pacific Symposium on Stroke, Tokyo.

Hatano, S. (1981) Health and longevity for the elderly in Japan, Conference on "Health and Aging", Groningen.

Hatano, S. (1982) Research on cardiovascular epidemiology in Japan, WHO Working Group on Hypertension and Stroke Research in the Western Pacific Region, Manila.

Hatano, S. (1982) Stroke mortality in Japan, An International Symposium on Hypertension, Taipei.

簗野脩一 (1982) 「日本、韓国、フィリッピンにおける食塩摂取と血圧」食物ミネラルと循環器疾患研究会、東京.

Hatano, S. (1982) Current Japanese situation on secondary prevention using lipid lowering drugs, Berlin.

簗野脩一 (1987) 「予後の考え方—疫学的立場より」第2回心臓ペーシング学会学術大会抄録『心臓ペーシング』 3(2), 173.

Hatano, S. (1996) Perspective of Ischemic Heart Disease in Japan. The 10th Asian-Pacific Congress of Cardiology, Seoul, *Congress Manuscript*, 190.

簗野脩一 (1996) 「大学生・卒業生の結婚・出産・育児に関する意見について」『日本人口学会第46回大会報告要旨集』 51.

簗野脩一 (1996) 「英国コーンウォール州における地域ケアの展開—地域の人材活用とパソコンネットワークによる情報共有並びにそのケアマネジメントにおける利用」日本社会福祉学会『第44回全国大会同研究報告概要

集』 678.

簗野脩一 (2000) 「PCG とは何か——英國医療制度の新しい実験」日本社会福祉学会第48回全国大会, 東京.

簗野脩一 (2000) 「公的介護保険の落し穴——介護認定のしくみへの疑問」第30回日本老年医学会関東甲信越地方会 『日老医誌』 37(5), 401.

簗野脩一 (2002) 「英國の医療見聞記」 第234回医療問題懇談会 (日本医学協会).

簗野脩一 (2002) 「予防医学の現状と将来像」第40回全国大学保健管理研究集会 『CAMPUS HEALTH』 39, 37.

簗野脩一 (2002) 「要介護認定の問題点を再考する」日本社会福祉学会第50回記念全国大会研究報告概要集, 424.

《学会発表／共著》

簗野脩一・廣田 穂・松崎俊久・腰永重四郎 (1976) 「死亡小票より見た循環器疾患診断の実態」第35回日本公衆衛生学会総会講演集 『日本公衛誌』 23(10) 特別附録, 339.

柴田 博・杵田猛司・上田敦子・ほか (1976) 「高血圧治療薬に対する患者側の意識と対応」第35回日本公衆衛生学会総会講演集 『日本公衛誌』 23(10) 特別附録, 353.

簗野脩一・七田恵子・廣田 穂 (1977) 「死亡小票よりみた複合死因の実態」第36回日本公衆衛生学会総会講演集 『日本公衛誌』 24(10) 特別附録, 246.

森山良典・柴田 博・五十嵐智枝子・ほか (1977) 「A B O 血液型と循環器各指標との関連」第36回日本公衆衛生学会総会講演集 『日本公衛誌』 24(10) 特別附録, 468.

七田恵子・松崎俊久・柴田 博・簗野脩一・ほか (1977) 「特別養護老人ホーム入所者の Mental status Questionnaire (MSQ) と ADL および臨床検査成績との関連」第19回日本老年医学会総会, 総会講演抄録集 『日老医誌』 14 Suppl., 62.

柴田 博・須山靖男・上田敦子・ほか (1977) 「糖代謝に関する疫学的研究 (第

1 報) 糖代謝に関連する諸因子、糖尿病のスクリーニング方法、有病率に関する考察」第19回日本老年医学会総会、同上誌、65-6.

簗野脩一・松崎俊久・七田恵子・ほか (1977) 「異なる環境にあった満70歳老人像一生理的側面」第19回日本老年医学会総会、同上誌、66.

Hatano, S. et al. (1978) Risk factors for mortality of the elderly observed in the Japanese old people's homes, The 11th Internat. Congress of Gerontology, Tokyo.

Hatano, S. and Shibata, H. (1978) A salt restriction trial in Japan, Internat. Conference on natural history and control of mild hypertension, Manila.

簗野脩一・松崎俊久・七田恵子・ほか (1978) 「70歳の地域老人にみる医学的・社会的指標の相互関係」第20回日本老年医学会総会、総会講演抄録集『日老医誌』15 Suppl., 33.

芳賀 博・簗野脩一・松崎俊久・ほか (1978) 「70歳から80歳への生理的老化の進行」第20回日本老年医学会総会、同上誌、33.

七田恵子・簗野脩一・松崎俊久・ほか (1978) 『地域老人の知的側面とその背景』第20回日本老年医学会総会、同上誌、38.

芳賀 博・芳賀京子・松崎俊久・簗野脩一 (1979) 「脳卒中管理効果の評価」第3回日本脳卒中学会総会講演抄録『脳卒中』1(2), 136.

芳賀 博・松崎俊久・簗野脩一 (1979) 「脳卒中管理効果の評価 (第2報)」第4回日本脳卒中学会総会講演抄録『脳卒中』1(3), 299.

柴田 博・上田敦子・五十嵐智枝子・ほか (1979) 「閉経と脂質代謝の関連について」『日本公衛誌』第38回日本公衆衛生学会総会講演集、26(10) 特別附録、247

芳賀 博・七田恵子・田中千佳子・ほか (1979) 「皮脂厚測定法の検討」『日本公衛誌』第38回日本公衆衛生学会総会講演集、26(10) 特別附録、248.

Hatano, S. and Matsuzaki, T. (1979) Cardiovascular risk factors of middle school children in a Japanese mountain village, The 5th Internat.

Congress of Atherosclerosis, Houston.

Hatano, S. and Matsuzaki, T. (1979) Blood pressures of middleschool children in a Japanese mountain village, The 7th Asian-Pacific Congress of Cardiology, Bangkok.

Hatano, S. and Shibata, H. (1979) Feasibility and effectiveness of salt restriction trial as an alternate to drug therapy in a community, The 2nd Asian-Pacific Symposium on Hypertension, Manila.

簗野脩一・松崎俊久・芳賀 博・ほか (1979) 「都市在住70歳老人の生命の予後規定因子」第21回日本老年医学会総会, 総会講演抄録集『日老医誌』16 Suppl., 36.

七田恵子・芳賀京子・芳賀 博・ほか (1979) 「老年者の心電図の予後に関する疫学的研究」第21回日本老年医学会総会, 同上誌, 38.

永井晴美・七田恵子・芳賀 博・ほか (1980) 「老人の貧血と2年間の予後」『日本公衛誌』第39回日本公衆衛生学会総会講演集, 27(10) 特別附録, 362.

七田恵子・芳賀 博・永井晴美・ほか (1980) 「老人における飲酒・喫煙習慣と5年間の予後」『日本公衛誌』第39回日本公衆衛生学会総会講演集, 27(10) 特別附録, 363.

芳賀 博・七田恵子・永井晴美・ほか (1980) 「老人の自覚症, ADL, 予後の関連」『日本公衛誌』第39回日本公衆衛生学会総会講演集, 27(10) 特別附録, 364.

松崎俊久・柴田 博・七田恵子・ほか (1980) 「小児コレステロールを左右する因子」『日本公衛誌』第39回日本公衆衛生学会総会講演集, 27(10) 特別附録, 457.

柴田 博・高橋正枝・上田敦子・ほか (1980) 「食塩摂取レベルの推定に有用な問診」『日本公衛誌』第39回日本公衆衛生学会総会講演集, 27(10) 特別附録, 467.

簗野脩一・松崎俊久・七田恵子・ほか (1980) 「老人の高血圧の治療状況と予後」『日本公衛誌』第39回日本公衆衛生学会総会講演集, 27(10) 特別附録,

478.

荒尾静代・簗野脩一・松崎俊久・ほか (1980) 「都市在住老人の健診成績より
みた生命予後について」第22回日本老年医学会総会, 総会講演抄録集『日
老医誌』17 Suppl., 20-1.

簗野脩一・松崎俊久・七田恵子・ほか (1980) 「老人ホーム在住者の 5 年後の
予後」第22回日本老年医学会総会, 同上誌, 21.

芳賀 博・松崎俊久・七田恵子・ほか (1980) 「老人ホーム健診成績と 5 年間
の予後—総死亡を中心として—」第22回日本老年医学会総会, 同上誌,
21.

松崎俊久・七田恵子・芳賀 博・ほか (1980) 「老人における循環器疾患の危
険因子」第22回日本老年医学会総会, 同上誌, 21.

七田恵子・松崎俊久・永井晴美・ほか (1980) 「老人ホーム在住者における癌、
肺炎の予後を規定する因子」第22回日本老年医学会総会, 同上誌, 60.

Hatano, S. et al. (1981) Prognostic factors of elderly, The 12th Internat,
Congress of Gerontology, Hamburg.

Hatano, S. and Matsuzaki, T. (1981) What determines serum cholesterol
in children, The 9th Internat. Conference of Internat. Epidemiology
Assoc., Edinburgh.

Hatano, S. et al. (1981) Factors affecting survival of the elderly in old
people's home in Japan, The 9th Internat. Conference of Internat.
Epidemiology Assoc., Edinburgh.

林 春沢・福地義之助・矢野清隆・ほか (1981) 「スパイログラム及びフロー
ボリューム曲線の加齢変化—正常値設定についての問題点」第23回日本
老年医学会総会, 総会講演抄録集『日老医誌』18 Suppl., 69.

荒尾静代・簗野脩一・松崎俊久・ほか (1981) 「都市在住老人の健診成績より
みた生命予後について—」第23回日本老年医学会総会, 同上誌, 70-1.

七田恵子・芳賀 博・永井晴美・ほか (1982) 「老人の禁煙理由と健康状況」
『日本公衛誌』第41回日本公衆衛生学会総会講演集, 29(10) 特別附録, 250.

簗野脩一・藤井 充・伊藤国子・ほか (1982) 「死亡統計および患者調査より
みたわが国虚血性心疾患の動向」第42回日本公衆衛生学会総会講演集『日
本公衛誌』, 30(1) 特別附録, 215.

七田恵子・芳賀 博・永井晴美・ほか (1982) 「老人の運動習慣と心身条件」
『日本公衛誌』第42回日本公衆衛生学会総会講演集, 30(1) 特別附録, 508.

森山純子・七田恵子・芳賀 博・ほか (1982) 「老人の食生活に対する意識と
実態」『日本公衛誌』第42回日本公衆衛生学会総会講演集, 30(1) 特別附
録, 516.

芳賀 博・七田恵子・永井晴美・ほか (1982) 「社会・心理・身体的要因と老
人の保健行動」『日本公衛誌』第42回日本公衆衛生学会総会講演集, 30(1)
特別附録, 521.

永井晴美・松崎俊久・七田恵子・ほか (1982) 「地域70歳老人の血液生化学値
と食品摂取状況の3年間の推移」第24回日本老年医学会総会, 総会講演
抄録集『日老医誌』19 Suppl., 64.

柴田 博・古谷野 亘・七田恵子・ほか (1983) 「地域老人追跡調査における
受診者と未受診者の比較」第25回日本老年医学会総会, 総会講演抄録集
『日老医誌』20 Suppl., 107.

七田恵子・芳賀 博・永井晴美・ほか (1983) 「地域老人における血圧レベル
とペントン視覚記憶力5年後の変化」第25回日本老年医学会総会, 同上
誌, 108.

芳賀 博・柴田 博・七田恵子・ほか (1983) 「老人の転倒に関する研究」第
25回日本老年医学会総会, 同上誌, 108.

松田 保・小河原 緑・三浦玲子・ほか (1983) 「都市在住70歳老人の凝固線
溶能の5年間の推移」第25回日本老年医学会総会, 同上誌, 110.

七田恵子・簗野脩一・白木正孝・ほか (1984) 「加齢に伴う骨塩減少に影響す
る因子について (第1報) 主として牛乳摂取、身体活動の及ぼす影響」
第2回骨代謝学会、東京.

古谷野 亘・柴田 博・七田恵子・ほか (1984) 「地域老人追跡調査における

受診者と未受診者の比較(第2報)」第26回日本老年医学会総会, 総会講演抄録集『日老医誌』21 Suppl., 113.

柴田 博・古谷野 亘・七田恵子・ほか (1984) 「80歳老人の5年間の心身変化と死亡に関連する要因」第26回日本老年医学会総会, 同上誌, 113.

簗野脩一・七田恵子・松崎俊久・ほか (1984) 「老人の骨密度と高血圧, 利尿剤使用の関係」同上誌, 120.

七田恵子・簗野脩一・竹内和子・黒田善雄・高嶋 刃 (1985) 「某体育大学卒業生の運動と健康に関する調査研究—全国調査との比較—」第40回日本体力医学会、鳥取.

久保奈佳子・蓑輪真澄・藤田利治・ほか (1985) 「平均余命と食品消費摂取との関連性—第1報 相関分析」第27回日本老年医学会総会, 総会講演抄録集『日老医誌』22 Suppl., 81.

勝野真人・金森雅人・佐藤龍三郎・ほか (1985) 「老人の骨折に関する疫学的研究」第27回日本老年医学会総会, 同上誌, 84.

藤田利治・簗野脩一 (1985) 「ADL 低下と地域・社会条件」第27回日本老年医学会総会, 同上誌, 85.

久保奈佳子・蓑輪真澄・藤田利治・ほか (1985) 「主要疾病と食品消費構造との関連性—全国消費実態調査を用いて」『日本公衛誌』第44回日本公衆衛生学会総会抄録集, 32(10) 特別附録, 669.

柴田 博・古谷野 亘・七田恵子・ほか (1985) 「在宅老人における ADL の変化と関連要因」『日本公衛誌』第44回日本公衆衛生学会総会抄録集, 32(10) 特別附録, 391.

須山靖男・七田恵子・芳賀 博・ほか (1985) 「地域在宅老人の食物摂取状況と生命予後」『日本公衛誌』第44回日本公衆衛生学会総会抄録集, 32(10) 特別附録, 395.

藤田利治・簗野脩一ほか (1985) 「地域居住老人の主観的健康感」『日本公衛誌』第44回日本公衆衛生学会総会抄録集, 32(10) 特別附録, 386.

藤田利治・簗野脩一・谷口幸一・大塚俊男 (1985) 「老人の主観的幸福感とそ

の関連要因」老年社会学会『第27回大会報告要旨集』17.

簗野脩一・藤田利治 (1985) 「ADL の性差」老年社会学会『第27回大会報告要旨集』18.

芳賀 博・七田恵子・永井晴美・ほか (1985) 「健康度自己評価の医学的背景」老年社会学会『第27回大会報告要旨集』50.

谷口幸一・大塚俊男・藤田利治・簗野脩一 (1986) 「高齢者の生活意欲と身体活動」老年社会学会『第28回大会報告要旨集』21.

簗野脩一・蓑輪真澄・母里啓子 (1986) 「死亡統計からみた老人の自殺」老年社会学会『第28回大会報告要旨集』31.

簗野脩一・藤田利治・蓑輪真澄・ほか (1986) 「老人の健康診断受診状況と身体活動」第28回日本老年医学会総会, 総会講演抄録集『日老医誌』23 Suppl. (再録: 1987. 「老人の健康診断受診状況と身体活動」第28回日本老年医学会総会記録 一般演題(IV) 『日老医誌』24(5), 509.)

久保奈佳子・赤松恒彦・市川 勇・ほか (1987) 「高齢者の視力に関する疫学的研究 第1報 視力異常の頻度と身体的特性」『日本公衛誌』第46回日本公衆衛生学会総会抄録集, 34(10) 特別附録, 534.

Shichita, K., Otake, T., Kamata, K. et al. (1987) Incidence and causes of fracture in community residents, The 3rd Asia/Oceania Regional Congress of Gerontol., Bangkok.

柴田 博・上野満雄・芳賀 博・ほか (1987) 「地域70歳老人の10年間の追跡調査 第1報 死亡の予知因子」第29回日本老年医学会総会, 総会講演抄録集『日老医誌』24 Suppl., 101. (再録: 1988. 総会記録 一般演題(IV) 『日老医誌』25(4), 436-6.)

永井晴美・柴田 博・芳賀 博・ほか (1987) 「地域70歳老人の10年間の追跡調査 第2報 身体計測値・血液成分の変化」第29回日本老年医学会総会, 同上誌, 101. (再録: 1988. 総会記録 一般演題(IV) 『日老医誌』25(4), 436.)

金森雅夫・島内 節・簗野脩一・ほか (1988) 「健康レベル別にみた老人の生

活実態比較と地域ケアの要件」『日本公衛誌』第47回日本公衆衛生学会総会抄録集, 35(8) 特別附録, 120.

七田恵子・巻田ふき・大竹登志子・ほか (1988) 「老人の死は在宅か、施設でか—その関連因子について」『日本公衛誌』第47回日本公衆衛生学会総会抄録集, 35(8) 特別附録, 165.

巻田ふき・七田恵子・遠藤千恵子・ほか (1988) 「地域住民におけるターミナルケアの現状 1報：在宅死亡と病院死亡の比較」第30回日本老年医学会総会, 総会講演抄録集『日老医誌』25 Suppl., 66.

七田恵子・遠藤千恵子・鎌田ケイ子・ほか (1989) 「地域住民におけるターミナルケアの現状 2報：疾患別にみたターミナルケア」第30回日本老年医学会総会, 同上誌, 66.

Oobuchi, R., Shichita, K., Makita, F. et al. (1989) Attitude of Japanese Families to Responsibility for Caring old Family Members and Its Determinants, The XIVth Internat. Congress of Gerontol. Acapulco, Book of Abstracts, 358.

Makita, F., Shichita, K., Oobuchi, T. et al. (1989) Terminal Care in the Japanese Communities, *ibid.*, 367.

Hatano, S., Shichita, K., Makita, F. et al. (1989) The Determinants of the Place of Death of the Elderly: At Home or in Hospital ? *ibid.*, 391.

Shichita, K., Hatano, S., Matuzaki, T. et al. (1989) Effects of Milk Intake on General Nutrition and Bone Density in the Japanese Elderly's Homes. *ibid.*, 428.

金森雅夫・一瀬邦弘・店橋光枝・ほか (1990) 「アルツハイマー型老年痴呆のライフスタイルに関する患者・対照研究」第32回日本老年医学会学総会, 総会講演抄録集『日老医誌』27 Suppl., 112.

七田恵子・巻田ふき・大竹登志子・ほか (1990) 「精神症状を有する在宅老人の介護負担に関する研究」社会老年科学会『第32回大会報告要旨集』42.

矢部弘子・巻田ふき・七田恵子・簗野脩一 (1990) 「高齢者の聴力低下に伴う

日常生活への影響」社会老年科学会『第32回大会報告要旨集』123.

七田恵子・巻田ふき・矢部弘子・ほか (1990) 「地域在宅老人の日中寝床時間と日常生活動作能力との関係」『日本公衛誌』第49回日本公衆衛生学会総会抄録集, 37(10) 特別附録, 393.

七田恵子・巻田ふき・田宮菜奈子・簗野脩一 (1991) 「介護の負担感は減らせるか」『日本公衛誌』第50回日本公衆衛生学会総会抄録集, 38(10) 特別附録, 579.

簗野脩一・田宮菜奈子・七田恵子・巻田ふき (1991) 「高齢死亡者および高齢障害者の地域比較 1) 疾患と日常生活動作を中心に」『日本公衛誌』第50回日本公衆衛生学会総会抄録集, 38(10) 特別附録, 657.

田宮菜奈子・七田恵子・簗野脩一・巻田ふき (1991) 「高齢死亡者の地域比較 2) 在宅死に影響を及ぼす地域要因—介護者の要因からの検討」『日本公衛誌』第50回日本公衆衛生学会総会抄録集, 38(10) 特別附録, 658.

Hatano, S. et al. (1991) Health and related factors observed in the elderly residents in 3 areas in Japan, The IVth Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology, *Abstracts*, 83.

Yabe, H. et al. (1991) Problems for demented patients in general hospitals -A review of 51 Japanese case reports, *ibid.*, 168.

Makita, F. et al. (1991) Current situations of urinary and stool incontinence among the frail elderly in the Japanese communities, *ibid.*, 183.

Shichita, K., Otake, T., Kamata, K. et al. (1991) Average length of stay in bed and bed-ridden state of the elderly in the community, *ibid.*, 236.

Nagata, K. et al. (1991) A study on changes of selfcare pattern introduced by the elderly, *ibid.*, 313.

行方 令・Moore, D.・林 知己夫・ほか (1992) 「シアトル日系アメリカ人における動脈硬化指標とライフスタイルに関する研究」『日本公衛誌』第51回日本公衆衛生学会総会抄録集, 39(10) 特別附録, 441.

藤村 康・荒記俊一・七田恵子・ほか (1992) 「在宅脳卒中既往者の地域比較」『日本公衛誌』第51回日本公衆衛生学会総会抄録集, 39(10) 特別附録, 486.

卷田ふき・七田恵子・永田久美子・簗野脩一 (1992) 「地域在住老人の失禁とその関連項目および対処行動について」『日本公衛誌』第51回日本公衆衛生学会総会抄録集, 39(10) 特別附録, 593.

簗野脩一・七田恵子・卷田ふき・永田久美子 (1992) 「地域老人の生命及び ADL 予後 三地域の 7 年間の観察から」『日本公衛誌』第51回日本公衆衛生学会総会抄録集, 39(10) 特別附録, 773.

永田久美子・七田恵子・卷田ふき・簗野脩一 (1992) 「老人の自覚症状が身心の活動性や主観的健康感にどのように関係しているか—地域在住老人の分析」『日本公衛誌』第51回日本公衆衛生学会総会抄録集, 39(10) 特別附録, 835.

簗野脩一・七田恵子・卷田ふき・永田久美子 (1992) 「高齢者の喫煙と飲酒習慣およびその健康への影響」日本老年社会科学会『第34回大会報告要旨集』49.

卷田ふき・七田恵子・永田久美子・簗野脩一 (1992) 「地域在住老人の睡眠状況の検討」日本老年社会科学会『第34回大会報告要旨集』53.

永田久美子・七田恵子・卷田ふき・簗野脩一 (1992) 「主症状に対する老人の対処行動について」日本老年社会科学会『第34回大会報告要旨集』96.

永田久美子・卷田ふき・七田恵子・簗野脩一 (1992) 「老人ケースの福祉・医療ニーズについて」日本社会福祉学会 第40回全国大会、長野.

簗野脩一・ほか (1993) 「地域在住高齢者の身体活動状況について」第3回日本疫学会総会講演集 *J. Epidemiol.* 3(1) Suppl., 143.

Namekata, T. et al. (1993) The association between the aortic pulse wave velocity and cardiovascular risk factors. Santa Fe, The 33rd Annual Conf. on Cardiovasc. Epidem. and Prevention. *Circulation* 87(2) Abs., 26.

Hatano, S. et al. (1993) The lifestyles of the elderly in Japanese commu-

nities (1) Lifestyles in relation to ADL. Budapest, The XVth Congress of Internat. Association of Gerontol., *Abstracts*, 186.

Shichita, K. et al. (1993) The lifestyles of the elderly in Japanese communities (2) Sleep time characteristics. *ibid.*, 186.

Hatano, S. et al. (1993) The lifestyles of the elderly in Japanese communities (3) Smoking habits. Its changes and effects on health. *ibid.*, 186.

簗野脩一・七田恵子・巻田ふき・ほか (1993) 「老人の喫煙は危険か?」第35回日本老年医学会総会『日老医誌』30 Suppl., 117.

Namekata, T. et al. (1993) The relationship between lifestyle factors and serum lipides, lipoproteins and blood pressure among Japanese ancestry in Seattle, WA, U.S.A. The XIIIth Internat. Scientific Meeting of IEA, Sydney, *Program & Abstracts*, 81.

簗野脩一・田浦正明・石川克己・小倉常明 (1993) 「終末期の迎え方についての高齢者の意見」日本老年社会学会『第35回大会報告要旨集』112.

行方 令・Moore, D.・林知己夫・ほか (1993) 「シアトル日系アメリカ人における動脈硬化指標とライフスタイルに関する研究 (第2報)」『日本公衛誌』第52回日本公衆衛生学会総会抄録集, 40(10) 特別附録, 613.

行方 令・・林知己夫・簗野脩一・ほか (1994) 「シアトル日系アメリカ人における動脈硬化指標とライフスタイルに関する研究 (第3報)」『日本公衛誌』第53回日本公衆衛生学会総会抄録集, 41(10) 特別附録, 613.

簗野脩一・七田恵子 (1994) 「地域老人の ADL 変化について」『日本公衛誌』第53回日本公衆衛生学会総会, 抄録集, 41(10) 特別附録, 970.

永田久美子・ほか (1994) 「老人の身体症状と対応—第3報症状持続時間と対応の変化」日本老年社会学会『第36回大会報告要旨集』53.

七田恵子・ほか (1994) 「訪問看護の評価方法の検討—家族の評価と担当ナースの評価比較—」日本老年社会学会『第36回大会報告要旨集』長岡.

巻田ふきほか (1994) 「老人の生きがいとその変化」第53回日本公衆衛生学会

総会抄録集『日本公衛誌』41(10) 特別附録, 613.

卷田ふきほか (1994) 「老人が介護を期待する人」第53回日本公衆衛生学会総会抄録集『日本公衛誌』41(10) 特別附録, 967.

行方 令・Moore, D., • Perrin, E.B. • ほか (1995) 「シアトル在住日系アメリカ人における循環器疾患に関する疫学研究 (第1報)」第5回日本疫学会総会、大阪 *J. Epidemiol.* 5(1) Suppl., 64.

Namekata, T., Hughes, D., Moore, D., et al. (1995) Health Promotion Program for Japanese Americans in Seattle, Washington, U.S.A. Seattle Nikkei Health Study, The XVth World Conference of the Internat. Union for Health Promotion and Education Makuhari, *Abstracts*, 517.

七田恵子・簾野脩一・高崎絹子・ほか (1995) 「訪問看護の評価方法の検討—7種の調査試行結果から—」日本老年社会学会『第37回大会報告要旨集』97.

行方 令・Hughes, D., Moore, D., et al. (1995) 「シアトル日系アメリカ人における血清脂質とライフスタイル要因に関する研究 (第4報)」第54回日本公衆衛生学会総会抄録集『日本公衛誌』42(10) 特別附録, 734.

簾野脩一・永田久美子・七田恵子・卷田ふき (1995) 「高齢者の手、足、腰の痛みとその対応について」第54回日本公衆衛生学会総会抄録集『日本公衛誌』42(10) 特別附録, 1143.

加賀谷 一・簾野脩一 (1995) 「医療・リハビリテーションから福祉への接近—QOL 概念を中心に—」日本社会福祉学会『第43回全国大会研究報告概要集』622-623.

簾野脩一・七田恵子・卷田ふき・永田久美子 (1996) 「高齢者が自立を保つための要因」日本老年医学会 第38回学術集会『日老医誌』33 Suppl., 106.

Namekata, T., Hughes, D., Arai, C. et al. (1996) Arteriolar sclerotic and hypertensive changes in the retinal arterial system and cardiovascular disease risk factors among Japanese Americans, The 29th

Annual Meeting, Boston, *Am.J.Epidem.* 143(11) Suppl., 13.

Hatano, S. et al. (1996) What keeps old people active ? Results from a community-based longitudinal study. The XIV Internat. Scientific Meeting of the Internat. Epidem. Assoc., *Program & Abstracts*, 89.

Namekata, T., Suzuki, K., Moore, D. et al. (1996) Coronary heart disease and its risk factors among Japanese Americans in Seattle and native Japanese in Japan. *ibid.*, 113.

Namekata, T., Moore, D., Suzuki, K. et al. (1996) Aortic pulse wave velocity and risk factors for cardiovascular diseases in Japanese Americans and native Japanese. *ibid.*, 160.

Namekata, T., Hughes, D., Arai, C. et al. (1996) Arteriolar sclerotic or hypertensive changes in the retinal artery and atherosclerotic risk factors in Japanese Americans and Japanese. *ibid.*, 162.

行方 令・ほか (1997) 「シアトル日系アメリカ人集団における循環器疾患に関する疫学研究 (第 2 報)」第 7 回日本疫学学会総会東京 *J. Epidemiol.* 7(1) Suppl., 100.

飯田佳子・簾野脩一 (1997) 「老人同士のいじめはなぜ表面化されないのか ? — ある老人病院での調査と結果について — 」『日本老年社会科学院 第39回大会 報告要旨集』 154.

Aho, K., Harmsen, P., Hatano, S. et al. (1997) Incidence of stroke in fifteen communities in Africa, Asia abd Europe, The 11th World Congress of Neurology, Amsterdam.

Namekata, T., Suzuki, K., Moore, D. et al. (1997) Coronary heart disease and its risk foctors a mong Japanese Americans in Seattle and native Japanese in Japan, The 30th Annud Meeting, Edmonton, *Am. J. Epidemiol.* 145(11) Suppl. 13, S84.

Namekata, T., Moore, D., Hughes, D. et al. (1998) An epidemiological study of cardiovascular disease among Japaanese Americans in

Seattle, U.S.A. The 3rd report, *J. of Epidemiology*, 8(1) Suppl. 45.

藤野達也・簗野脩一 (1999) 「老人保健施設利用者の施設入所要因における地域差」『第25回日本保健医療社会学会大会抄録集』114.

鉢丸俊一・簗野脩一 (1999) 「医療ソーシャルワークの業務実態と従事者の意識」『第25回日本保健医療社会学会大会抄録集』108.

藤野達也・簗野脩一 (1999) 「在宅要介護老人の施設入所要因研究 調査対象の特性—某県下老人保健施設利用者の調査」第58回日本公衆衛生学会総会抄録集『日本公衛誌』46(10) 特別附録, 565.

藤野達也・簗野脩一 (2000) 「老人保健施設利用者のサービス利用意識」日本社会福祉学会 第48回全国大会 東京.

福本久美子・宮北隆志・簗野脩一 (2001) 「高齢者の包括的な調査票作成の試み 1」第60回日本公衆衛生学会総会抄録集『日本公衛誌』48(10) 特別附録, 359.

山内庸子・簗野脩一(2002)「介護支援専門員はどこでどう働いているか— 一地方都市における調査成績から」『第44回日本老年社会科学会大会報告要旨集』191.

島村忠義・簗野脩一・中谷千鶴子・ほか (2003) 「外来患者の病気への対処行動に関する研究」第29回日本保健医療社会学会大会抄録集『保健医療社会学論集』14 (特別号), 47.

《翻訳》

Report on a Working Group (1976) Nursing aspects in the care of the elderly, Regional Office for Europe, World Health Organ. (=鎌田ケイ子・簗野脩一訳(1978)『老人看護のめざすもの』日本看護協会出版部.)

Hodkinson, H. M. (1981) An outline of Geriatrics, 2nd ed. Academic Press, London. (=簗野脩一訳 (1984)『老年医学入門 アプローチと診療の要点』丸善.)

Vlietstra, R. E., Kronmal, R. A., Oberman, A. et al. (1986) Effect of

Cigarette Smoking on Survival of Patients with Angiographically Documented Coronary Artery Disease, Report from the CASS Registry. J.A.M.A. 255(8), 1023-7. (= 簡野脩一訳 (1986) 「血管写によって確認された冠状動脈疾患患者の生存に及ぼす紙巻タバコ喫煙の効果 CASS 登録からの報告」『JAMA (日本語版)』 11, 27-32.)

Warner, K. E. (1986) Smoking and Health Implications of a Change in the Federal Cigarette Excise Tax, J.A.M.A., 255(8), 1028-32. (= 簡野脩一訳 (1986) 「政府のタバコ消費税変更が喫煙と健康に及ぼす影響」『JAMA (日本語版)』 11, 93-5.)

Kravitz, R.L., Rolph, J. E. and McGuigan, K. (1991) Malpractice Claims Data as a Quality Improvement Tool I. Epidemiology of Error in Four Specialties, J.A.M.A., 266(15), 2087-92. (= 簡野脩一訳 (1992) 「医療過誤データを医療の質的向上の道具に使う I. 4 専門科における医療過誤の疫学」『JAMA (日本語版)』 5, 48-54.)

Rolph, J.E., Kravitz, R.L. and McGuigan, K., (1991) Malpractice Claims Data as a Quality Improvement Tool, II. Is Targeting Effective? J. A.M.A., 266(15), 2093-7. (= 簡野脩一訳 (1992) 「医療過誤データを医療の質的向上の道具に使う II. 特定医師を対象とすることは効果的か?」『JAMA (日本語版)』 5, 55-61.)

McGovern, P.G., Burke, G.L., Sprafka, J.M. et al. (1992) Trends in Mortality, Morbidity, and Risk Factor Levels for Stroke From 1960 Through 1990, The Minnesota Heart Study, J.A.M.A., 268(6), 753-9. (= 簡野脩一訳 (1993) 「1960年から1990年に至る脳卒中の死亡率、発生率、リスクファクターの推移 ミネソタ心臓研究より」『JAMA (日本語版)』 1, 46-54.)

Perneger, T.V., Nieto, f.J., Whelton, P.K. et al. (1993) A Prospective Study of Blood Pressure and Serum Creatinine. Results from the 'Clue' Study and the ARIC Study. J.A.M.A. (269) 4, 488-93. (= 簡野脩

一訳 (1993) 「血圧と血清クレアチニンに関する前向き研究 Clue 研究及び ARIC 研究の成績」『JAMA (日本語版)』7, 63-70.)

Davis, F.L., Dinse, G.E. and Hoel, D.G. (1994) Decreasing Cardiovascular Disease and Increasing Cancer Among Whites in the United States From 1973 Through 1987. Good News and Bad News, J.A.M.A. 271 (6), 431-7. (= 篠野脩一訳 (1994) 「1973年から1987年にかけて米国の白人に見られた循環器疾患の減少と癌の増加 良いニュースと悪いニュース」『JAMA (日本語版)』9, 81-9.)

Blair, S. N., Kohl III, H. S. W., Barlow, C. E. et al. (1995) Changes in Physical Fitness and All-Cause Mortality, A Prospective Study of Healthy and Unhealthy Men, J.A.M.A., 273(14), 1093-8. (= 篠野脩一訳 (1995) 体力の変化と総死因による死亡 健康者と不健康者についての前向き調査研究)『JAMA (日本語版)』10, 74-81.)

《その他》

篠野脩一 (1963) 「呼吸器疾患—結核」『歯界展望』21(5) 臨時増刊, 589-92.

篠野脩一 (1963) 「呼吸器疾患—Influenza」『歯界展望』21(5) 臨時増刊, 593-6.

Hatano, S. (1970) Stroke—a problem in Japan today, *World Health*, Aug.-Sep., 12-17.

Hatano, S. (1972) Hypertension control to cut stroke rate, *World Health*, Feb.-Mar., 31-33.

Fejfar, Z., Strasser, T., Hatano, S. et al. (1974) Cardiovascular diseases: care and prevention 1, *WHO Chronicle*, 28, 55-64.

Fejfar, Z., Strasser, T., Hatano, S. et al. (1974) Cardiovascular diseases: care and prevention 2, *WHO Chronicle*, 28, 116-25.

Hatano, S. (1978) On the right lines, *World Health*, Feb.-Mar., 12-5.

篠野脩一 (1981) 「拡張期 収縮期高血圧症」日本医師会企画, ラジオたんぱ『医学講座』2.22.放送.

簾野脩一(1981)「虚血性脳血管疾患 痘学 2. 國際比較」日本醫師会企画,
岩波映画製作,『テレビ医学研究講座』第51集, 4.18.放映.

簾野脩一(1982)「WHO 勤務のいきさつ」『OS』(社会保険出版社) 1, 20~22.

簾野脩一 (1983)「老人問題の本」『暮らしと健康』49-51.

簾野脩一 (1984)「那須先生との出会い」『赤門白門不老門』那須先生古稀祝
賀記念出版委員会, 63-69.

簾野脩一 (1984)「美甘先生との御縁」『追悼集 美甘義夫』(財)日本心臓財団,
94-95.

簾野脩一 (1984)「高血圧の一次予防」日本醫師会企画, ラジオたんぱ『医学
講座』 3.27.放送.

簾野脩一・安部 英 (1984)「日本人の高血圧」(対談) 日本醫師会, ラジオ
たんぱ企画『医学放送番組』 9.14.放送.

簾野脩一 (1985)「百歳を生きる」『波』新潮社, 8, 34-5.

簾野脩一 (1985)「“人生列車” のダイヤは語る…統計から成人病をみると」
『成人病は先手必勝 若い頃からの健康管理』予防健康出版社, 7-16.

簾野脩一 (1986)「日常生活と老化」『テレビ医学研究講座「老化」』第59集,
テレビ東京.

簾野脩一 (1987)「コーヒーは心筋梗塞のリスクファクターか」『内科』60(4),
970.

簾野脩一 (1987)「老化の痘学とは?」『公衆衛生院ニュース』23, 13-7.

簾野脩一 (1987)「大竹先生の思い出」『信夫』(福島中学校・第42期三組合同
クラス会) メイト企画, 7, 4.

簾野脩一(1988)「長寿社会における公衆衛生の役割」(座長あいさつ)『公衆
衛生院研究報告』創立50周年記念号, 37補遺, 27.

簾野脩一(1990)「わが国の急性心筋梗塞の特徴と対策」『新医協』1218. 2-3.

簾野脩一(1990)「小児成人病をめぐって」(座談会)『治療学』24(12), 1447-58.

簾野脩一・五島雄一郎(1991)「コレステロールキャンペーンは正しいか」(対
談)『日本醫師会雑誌』105(6), 26-32.

簗野脩一 (1991) 「食生活と保健」『平成3年度 長寿社会とくらし 文京区消費者 通信教育講座』

簗野脩一 (1992) 「すこやかな体と心をつくる食生活を求める」『Salveo』(ヴァイン) 4, 4-5.

簗野脩一 (1994) 「磯村英一」内薦耕二・中根千枝・山岸俊一編『長寿傑出人と語る—研究者のみた傑出人のこころとからだ』メディカルフレンド社, 59-71.

簗野脩一 (1997) 「WHOのことなど」『淑徳図書館 News』6.

簗野脩一 (1997) 「新しい医療を求めて」柏木 昭・簗野脩一編『医療と福祉のインテグレーション』ヘルス出版, 134-45.

簗野脩一 (1998) 「医師のかかり方」『保健』474, 38-40.

簗野脩一 (1998) 「すこやかに老いるために」『派遣看護婦協和会セミナー資料第1集』6-36.

簗野脩一 (1998) 「伊藤良雄先生の思い出」『伊藤良雄先生追悼集 努力と運』伊藤良雄先生追悼集刊行委員会, 26-9.

簗野脩一 (1999) 「臨床から保健へ 保健から福祉へ」『本郷のなかまたち』東大医二四年会, 278-81.

簗野脩一 (1999) 「葉山達雄君の思い出」『本郷のなかまたち』東大医二四年会, 296-300.

簗野脩一 (2000) 「加齢と健康維持—中高年の健康学」『ナースのための元気読本』『Nurse eye』13(1), 6-51.

簗野脩一 (2001) 「医学一般」『社会福祉資格制度等シンポジウム報告書』社養協.

簗野脩一 (2002) 「保健の定義と保健・医療の役割」『ACTIVE LIFE』(名古屋公衆医学研究所, 10(2), 2.

簗野脩一 (2002) 「お世話になった方々の思い出、妄言、雑言など」『記念誌 しろかね 公衆衛生院64年の軌跡』321-31.

簗野脩一・星 旦二・白澤政和・竹内孝仁 (2002) 「保健・医療・福祉の連携

を促進するもの」(座談会)『ジェロントロジー ニューホライズン』14(3), 200-6.

簗野脩一(2002)「巡回指導で学ぶ現場の社会福祉」『じっしゅうレター』(熊本学園大学実習指導室) 3, 8-9.

簗野脩一(2003)「「ガンちゃん」の思い出」『伊藤 岩先生追悼文集』伊藤 岩先生追悼文集刊行委員会(筑波大学臨床医学系循環器内科) 14-6.

簗野脩一(2003)「予防医学の現状と将来像」『CAMPUS HEALTH』40(1), 45-60.

簗野脩一(2003)「WHO Monica Project と Japan Monica」『日本疫学会ニュースレター』(投稿中)

《循環科学》(丸善)連載分(一部)

簗野脩一(1980)「米国の食物脂肪論争」『循環科学』1(1).

簗野脩一(1981)「我が国の虚血性心疾患と食生活」『循環科学』1(2).

簗野脩一(1981)「コレステロール降下剤の効果に関する研究」『循環科学』1(3).

簗野脩一(1981)「病院論の確実さの合同評価の試み」『循環科学』1(4).

簗野脩一(1981)「日本文化と虚血性心疾患」『循環科学』1(5).

簗野脩一(1981)「方法の標準化」『循環科学』1(6).

簗野脩一(1981)「情報普及技術の開発」『循環科学』1(7).

簗野脩一(1981)「北カレリアプロジェクト」『循環科学』1(8).

簗野脩一(1981)「循環器疾患予防対策の評価」『循環科学』1(9).

簗野脩一(1981)「循環器疾患死亡率低下の謎」『循環科学』1(10).

簗野脩一(1981)「IHD 死亡率低下と救急医療の関与」『循環科学』1(11).

簗野脩一(1981)「冠状動脈バイパス手術の貢献—米国における経験」『循環科学』1(12).

簗野脩一(1982)「心筋梗塞登録のすすめ—循環器疾患の経年変化とその要因の観測」『循環科学』2(1).

簗野脩一 (1982) 「リスクファクターの多重効果」『循環科学』 2 (2).

簗野脩一 (1982) 「台湾の循環器疾患」『循環科学』 2 (3).

簗野脩一 (1982) 「中国各地の高血圧頻度」『循環科学』 2 (4).

簗野脩一 (1982) 「中国における循環器疾患の地域管理」『循環科学』 2 (5).

簗野脩一 (1982) 「循環器疾患基礎調査結果の概要をみて」『循環科学』 2 (6).

簗野脩一 (1982) 「韓国人の血圧」『循環科学』 2 (7).

簗野脩一 (1982) 「社会的精神的ストレスと循環器疾患」『循環科学』 2 (8).

簗野脩一 (1982) 「新しい虚血性心疾患予防の考え方」『循環科学』 2 (9).

簗野脩一 (1982) 「循環器疾患と孵化期間」『循環科学』 2 (10).

簗野脩一 (1982) 「臨床試験計画の立て方と成績の読み方」『循環科学』 2 (11).

簗野脩一 (1982) 「薬に頼らぬ高血圧の治療と予防」『循環科学』 2 (12).

簗野脩一 (1986) 「行動パターンA型」『循環科学』 6 (10), 1148-50.

簗野脩一 (1986) 「多項目検診は有効か?」『循環科学』 6 (12), 1366-8.

簗野脩一 (1988) 「どこまで血圧を下げるべきか」『循環科学』 8 (1), 54-6.

簗野脩一 (1988) 「脳梗塞急性期治療評価の問題点」『循環科学』 8 (2), 184-6.

簗野脩一 (1988) 「プライマリケアと疫学 脳卒中発生率の国際比較」『循環科学』 8 (4), 458-60.

簗野脩一 (1988) 「プライマリケアと疫学 アスピリンによる循環器疾患の一次予防の可能性」『循環科学』 8 (5), 562-4.

簗野脩一 (1988) 「プライマリケアと疫学 有病率調査の方法—コピア研究の経験」『循環科学』 8 (6), 676-9.

簗野脩一 (1988) 「プライマリケアと疫学 A型行動パターンは心筋梗塞患者を守る」『循環科学』 8 (7), 778-80.

簗野脩一 (1988) 「プライマリケアと疫学 精神的ストレスと心臓」『循環科学』 8 (8), 898-900.

簗野脩一 (1988) 「プライマリケアと疫学 眠られぬ夜のために」『循環科学』 8 (9), 1010-2.

簗野脩一 (1988) 「プライマリケアと疫学 開業医の守備範囲は」『循環科学』

8 (10), 1130-2.

簗野脩一(1988)「プライマリケアと疫学 現代の高血圧における食塩の役割
—インター ソールトスタディ」『循環科学』 8 (11), 1234-6.

簗野脩一 (1988)「プライマリケアと疫学 職業は心疾患に関係するか」『循
環科学』 8 (12), 1348-50.

簗野脩一(1989)「プライマリケアと疫学 急性心筋梗塞死亡率低下の謎」『循
環科学』 9 (1), 72-4.

簗野脩一(1989)「プライマリケアと疫学 心筋梗塞地域登録の経験から」『循
環科学』 9 (2), 172-4.

簗野脩一(1989)「プライマリケアと疫学 日常知らずに繰り返されるタバコ
による心筋障害」『循環科学』 9 (3), 300-2.

簗野脩一(1989)「プライマリケアと疫学 循環器疾患の集団比較はもう古く
て役に立たないか」『循環科学』 9 (4), 418-20.

簗野脩一(1989)「プライマリケアと疫学 心疾患の職業較差—職業運転手の
場合」『循環科学』 9 (5), 528-31.

簗野脩一(1989)「プライマリケアと疫学 心筋梗塞の一次予防」『循環科学』
9 (6), 612-7.

簗野脩一(1989)「プライマリケアと疫学 循環器疾患予防と地元医師の任務
—ミネソタでの試み」『循環科学』 9 (7), 748-51.

簗野脩一(1989)「プライマリケアと疫学 血清コレステロールの測定が望ま
しい対象者の選択」『循環科学』 9 (8), 886-9.

簗野脩一(1989)「プライマリケアと疫学 医師やナースは栄養指導を担当で
きるか?」『循環科学』 9 (9), 982-5.

簗野脩一(1989)「プライマリケアと疫学 高脂血症との取り組み—米国の場
合」『循環科学』 9 (10), 1120-2.

簗野脩一(1989)「プライマリケアと疫学 コレステロールキャンペーンは正
しいか? 1. コレステロールは正確に測れるか?」『循環科学』 9 (12),
1330-2.

簾野脩一(1990)「プライマリケアと疫学 コレステロールキャンペーンは正しいか? 2. 血清コレステロールは食物で下げられるか?」『循環科学』10(1), 92-5.

簾野脩一(1990)「プライマリケアと疫学 コレステロールキャンペーンは正しいか? 3. コレステロール低下作戦—その利益と危険」『循環科学』10(2), 194-7.

簾野脩一(1990)「プライマリケアと疫学 高コレステロール血症は老人でも危険か?」『循環科学』10(3), 306-8.

簾野脩一(1990)「プライマリケアと疫学 老人の虚血性心疾患のリスクファクター—フラミンガム研究より」『循環科学』10(4), 428-30.

簾野脩一(1990)「プライマリケアと疫学 突然死の見方」『循環科学』10(5), 532-5.

簾野脩一(1990)「プライマリケアと疫学 東南アジア難民のポックリ病」『循環科学』10(6), 650-2.

簾野脩一(1990)「プライマリケアと疫学 北京の循環器疾患地域登録」『循環科学』10(8), 868-71.

簾野脩一(1990)「プライマリケアと疫学 高血圧患者にカリウム補充は必要か?」『循環科学』10(9), 978-80.

簾野脩一(1990)「プライマリケアと疫学 ライフスタイルが心臓を直す」『循環科学』10(10), 1076-8.

簾野脩一(1990)「プライマリケアと疫学 子供は何時どうして愛煙家になる?」『循環科学』10(11), 1186-8.

簾野脩一(1991)「プライマリケアと疫学 再び行動パターンA型をめぐって」『循環科学』11(2), 176-9.

簾野脩一(1991)「プライマリケアと疫学 我が国における疫学研究の歩みとその貢献」『循環科学』11(3), 274-8.

簾野脩一(1992)「包括医療と疫学1 医師のストレスと満足—カナダでの調査から」『循環科学』12(1), 68-70.

簾野脩一 (1992) 「包括医療と疫学 2 健康、疾病の不平等を測る」『循環科学』12(4), 394-7.

簾野脩一 (1992) 「包括医療と疫学 3 過労死とその労災認定の概況と医学の課題についての 1 考察」『循環科学』12(7), 714-9.

簾野脩一 (1992) 「包括医療と疫学 4 WHO モニカの現状—主任研究者のワークショップからの報告」『循環科学』12(10), 1014-7.

簾野脩一 (1993) 「包括医療と疫学 5 運動習慣の研究を薦める」『循環科学』13(1), 68-71.

簾野脩一 (1993) 「包括医療と疫学 6 オランダの大学病院勤務医の職業的満足」『循環科学』13(4), 394-7.

簾野脩一 (1993) 「包括医療と疫学 7 社会経済状態と健康—英国とスウェーデンの経験」『循環科学』13(7), 718-20.

簾野脩一 (1993) 「包括医療と疫学 8 運動習慣を広く根づかせるために」『循環科学』13(8), 1056-9.

簾野脩一 (1994) 「包括医療と疫学 9 リスクファクターを治療するのは危険か?—ヘルシンキ研究のミステリー」『循環科学』14(1), 66-69.

簾野脩一 (1994) 「包括医療と疫学 10 短い診療時間で失われるもの—米国の診療所での経験から」『循環科学』14(4), 406-7.

簾野脩一 (1994) 「包括医療と疫学 11 高齢時代は老人が健康を楽しむ明るい時代か病院や障害者が増える暗い時代か—カリフォルニアの調査研究から」『循環科学』14(7), 716-8.

簾野脩一 (1994) 「包括医療と疫学 12 循環器疾患リスクファクターの推移—北カレリア計画その後」『循環科学』14(10), 1006-8.

公刊図書

《編著／共著》

上田英雄・簾野脩一・柳井 嘉 (1963) 『レコードによる肺臓の聴診』南山堂.
Hatano, S. and Strasser, T. eds. (1975) Primary pulmonary hypertension,

Report on a meeting October 1973, WHO, Geneva.

Hatano, S., Shigematsu, I. and Strasser, T. eds. (1976) *Hypertension and stroke control in the community*, WHO, Geneva.

簗野脩一編 (1979) 『日本の中高年1 中高年健康管理学』上・下, 壇内出版.

簗野脩一・大高道也編 (1981) 厚生省公衆衛生局結核成人病課監修『減塩と食生活のハンドブック 高血圧・脳卒中・心臓病を防ぐために』社会保険出版社.

簗野脩一編 (1982) 『日本人の循環器疾患とリスクファクター』メディカルト リビューン日本支社.

柏木 昭・簗野脩一編 (1997) 『医療と福祉のインテグレーション』ヘルス出版.

簗野脩一・鎌田 実編 (2002) 「地域における高齢者の医療・福祉の連携の課題」『ジェロントロジー ニューホライゾン』14(3), メディカルレビュー社.